



KANAGAWA

神奈川県

体育センター

高等学校 保健体育

学習評価ハンドブック

～指導と評価の一体化をめざして～

平成19年度版

平成19年4月

神奈川県立体育センター

まえがき

現行学習指導要領は、完全学校週5日制の下、基礎的・基本的な内容の確実な習得を図り、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」を育成することを基本的なねらいとして、小学校・中学校では平成14年度に全面実施され、高等学校では平成15年度より学年進行で実施されています。

このねらいを実現するため、平成12年12月に教育課程審議会から「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について」の答申が出され、これを受けて国立教育政策研究所・教育課程研究センターから、平成14年2月に小学校及び中学校における「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料―評価規準、評価方法等の研究開発（報告）―」が示されました。

さらには、平成15年6月に国立教育政策研究所より高等学校における「評価の観点及びその趣旨」が示され、高等学校においてもより一層充実した学習指導と評価が求められています。

このような中、体育センターでは各学校における保健体育学習の充実を図るために、平成15年度から平成16年度にかけて高等学校の新学習指導要領に基づく学習指導と評価についての研究に取り組み、その成果を「高等学校 保健体育 学習評価ハンドブック」にまとめ、参考資料として発刊しました。

その後、評価に関する研究が進み、昨年度「改訂版」を発刊しましたが、各方面から多くのニーズがあり、さらに増刷が必要となりました。そこでこのたび、さらに改良を加え「19年度版」として新たに発刊することになりました。

各学校におかれましては、本ハンドブックや国立教育政策研究所等における報告書等を活用しながら、評価規準や評価の方法の工夫改善に努められ、より一層充実した学習指導が展開されることを期待します。

末尾となりましたが、本参考資料を作成するに当たり、ご尽力いただいた関係者の方々に心から感謝申し上げます。

平成19年4月

県立体育センター
所長 佐々木 悦子

ハンドブックの 効果的な利用のために…

このハンドブックは、次のように理論編と実践編の2部構成となっています。

《 理論編 》

- 主に学習評価の基本的な考え方や評価規準の設定の仕方等について述べてあります。
- Q & Aの形式を用いたり具体例を挙げたりしながら、できるだけわかりやすく表現することに心がけました。
- 評価規準の表現や評価方法について疑問をもった時に、参考にしてみてください。

《 実践編 》

- 科目体育の「体づくり運動」と「球技：バドミントン」、科目保健の「環境と食品の保健」の展開例を掲載しました。授業実践を尊重して作成したため、評価計画を始めとして多少形式が不統一な部分もあります。
- 展開例を参考にして、各学校の実態に応じてさらに工夫を加え、よりわかりやすく使いやすいものにしていただければと思います。

その他、さらに詳しく知りたいことや疑問、資料の請求等がございましたら、体育センター研修指導室までお問い合わせください。

このハンドブックが、少しでも先生方の授業づくりの参考になり、多くの高校生がより楽しく有意義な保健体育の学習をすすめることができるよう願っています。



問い合わせ先

体育センター 研修指導室

電話 0466(81)2572

FAX 0466(83)4622

E-mail: taiku-c.sidou@pref.kanagawa.jp

目次

—理論編—

学習評価の基本的な考え方

- Q 学習評価は何のために行うのですか…………… 1
- Q 何を評価するのですか…………… 2
- Q 観点別学習状況の評価とは何ですか…………… 3
- Q 目標に準拠した評価とは何ですか…………… 5
- Q 学習評価はいつ行うのですか…………… 7
- Q どんな方法で評価するのですか…………… 8
- Q 評価の際、注意する点は何ですか…………… 10
- Q 評価を組み入れた年間指導計画（シラバス）の作成方法は…………… 11
- Q 評価規準はどのように作成すればよいのですか…………… 12
- Q 指導と評価の一体化とはどういう意味ですか…………… 14
- Q 評価から評定へつなげるにはどうすればよいのですか…………… 15
- 引用参考文献…………… 16

評価計画作成の手順

- Q 保健体育科の目標作成はどう進めていくのですか…………… 17
- Q 保健体育科の評価規準を作成していく手順は…………… 18
- Q 目標と評価規準をどう結び付けるのですか…………… 19
- Q 学年ごとの体育・保健の目標作成はどう進めていくのですか…………… 20
- Q 各学年の体育・保健の評価規準を作成していく手順は…………… 21

- Q 各学年の目標と評価規準をどう結び付けるのですか…………… 21
- Q 目標の振り返りはどのように行うのですか…………… 23
- 評価規準作成の手順…………… 24

体育について

- Q 単元の目標を設定するには…………… 25
- Q 単元の評価規準を作成していくためには…………… 26
- Q 具体的評価規準を作成していくためには…………… 27
- Q 「指導と評価の計画」を作成していくためには…………… 28
- Q 評価方法にはどのようなものがありますか…………… 29
- Q 評価資料はどのようにまとめるのですか…………… 30

保健について

- Q 保健学習に求められている内容は…………… 31
- Q 単元の評価規準の設定の手順は…………… 32
- Q 具体的評価規準の設定のポイントは…………… 33
- Q 各観点の具体的評価規準の表現のポイントは…………… 33
- Q 具体的評価規準と学習場面における具体的学びの姿（5段階）を作成するには…………… 34
- Q 努力を要すると判断した生徒への指導の手だては…………… 34
- Q 評価の実施者、方法等は…………… 35
- Q 評価の記録はどうするのですか…………… 36

—実践編—

体 育

体づくり運動「体力を高める運動」

- 1 単元名…………… 37
- 2 単元目標…………… 37
- 3 中学校から高等学校の「体づくり運動（体力を高める運動）」の学習内容の整理（例）…………… 37
- 4 学習の道すじ…………… 38
- 5 評価規準…………… 38
 - （1）単元の評価規準…………… 38
 - （2）学習活動における具体的評価規準と学習場面における具体的学びの姿（5段階）…………… 39
- 6 指導と評価の計画…………… 40
- 7 展開例…………… 41
- 8 学習資料…………… 43

球技「バドミントン」

- 1 単元名…………… 46
- 2 単元目標…………… 46
- 3 中学校から高等学校の「球技（バドミントン）」の学習内容の整理（例）…………… 46
- 4 学習の道すじ…………… 47
- 5 評価規準…………… 47
 - （1）単元の評価規準…………… 47
 - （2）学習活動における具体的評価規準と学習場面における具体的学びの姿（5段階）…………… 48

- 6 指導と評価の計画…………… 49
- 7 展開例…………… 50
- 8 学習資料…………… 52

保 健

社会生活と健康「環境と食品の保健」

- 1 単元名…………… 56
- 2 単元目標…………… 56
- 3 学習の道すじ…………… 56
- 4 評価規準…………… 57
 - （1）単元の評価規準…………… 57
 - （2）学習活動における具体的評価規準と学習場面における具体的学びの姿（5段階）…………… 57
- 5 指導と評価の計画…………… 58
- 6 展開例…………… 59
- 7 学習資料…………… 61



理 論 編

学習評価の基本的な考え方

..... P 1 ~ P 1 6

学習評価の基本的な考え方

Q 学習評価は何のために行うのですか？

高等学校では平成15年度から学年進行で現行の学習指導要領により、「ゆとり」のなかで「生きる力」を育むことを目指して新しい学校教育が始まっています。これに先立ち、教育課程審議会は「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について（答申）」（平成12年12月）（以下答申という）によって、これからの学力観・評価観の改善事項について提言しました。

答申では、

「学習の評価を行うことは公の教育機関である学校の基本的な責務である。」とした上で、評価の機能と役割について次のように述べています。

学校や教師にとっての評価は…

- 各学年、各学校段階等の教育目標を実現するための教育実践に役立てるもの。

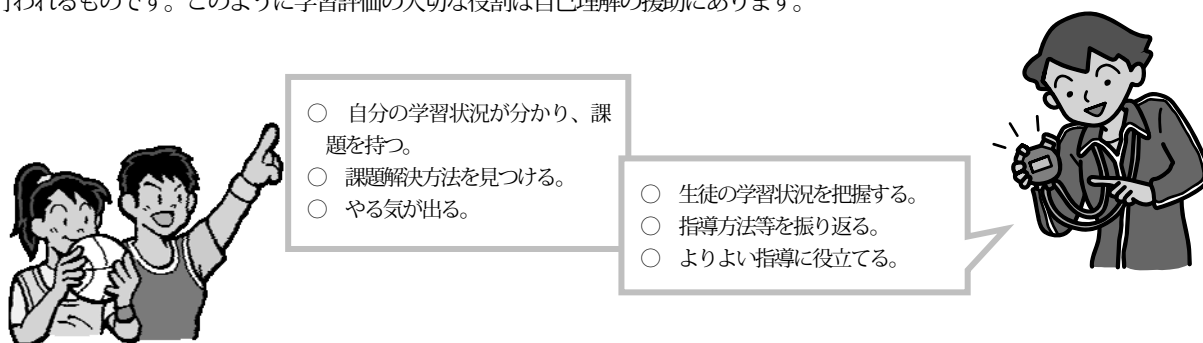
学校・教師にとっての評価は、学校・学年・単元等で立てた教育目標を実現するために、生徒がその目標に照らしてどのように変容しているかを明らかにするために行うものです。

評価とは生徒が何をどのように身に付けているのか、また、どのような点でつまずき、困難を感じているかを知り、それを解決・改善するために教師はどのように指導や支援をしていけばよいのかを明らかにするものであるという考え方が必要です。

生徒にとっての評価は…

- 生徒の一人ひとりのよさや可能性を積極的に評価し、豊かな自己実現に役立つようにするもの。

生徒にとっての評価とは、自分は何ができ、何が不十分なのか、次にどのような学習をすれば現在抱えている課題が解決できるのかなどが理解できるとともに、今行っている学習を振り返り、次に行う学習に意欲を持って取り組めるようにするために行われるものです。このように学習評価の大切な役割は自己理解の援助にあります。



したがって、学習の評価とは、「児童生徒のための評価であると同時に、学校や教員が進める教育自体の評価である。」（答申）といえます。

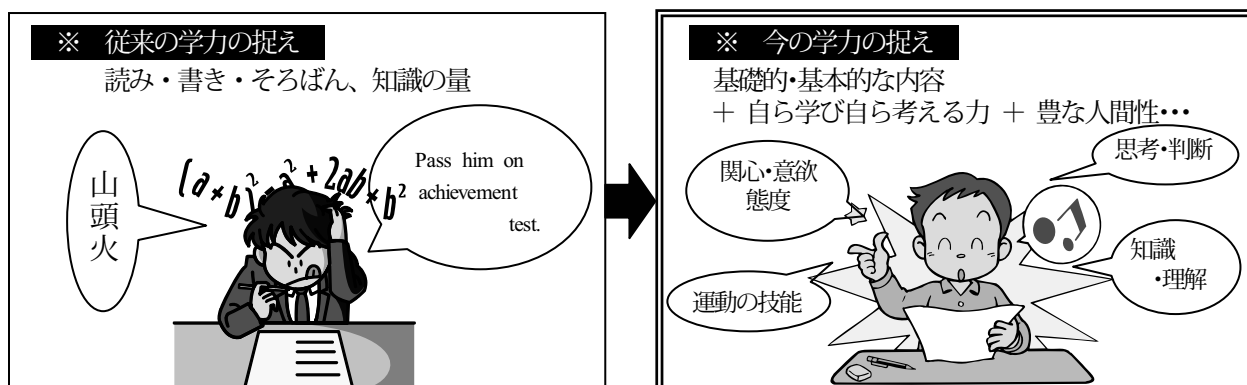
Q 何を評価するのですか？

何を評価するのか？は生徒にどんな学力を身に付けさせたいかと同義であると考えます。

したがって、何を評価するのかを明らかにするには、学力の内容を明らかにする必要があると考えます。

答申では学力について、次のように定義付けています。

単なる知識の量のみでとらえるのではなく、学習指導要領に示す**基礎的・基本的な内容**を確実に身に付けることはもとより、それにとどまることなく、自ら学び自ら考える力などの「**生きる力**」がはぐくまれているかどうかによってとらえる必要がある。



○ 基礎的・基本的内容とは…

学習指導要領に示されている目標・内容として定められているもの全体を指します。

○ 「生きる力」とは…

21世紀に求められる力 (平成8年7月中央教育審議会 答申より)

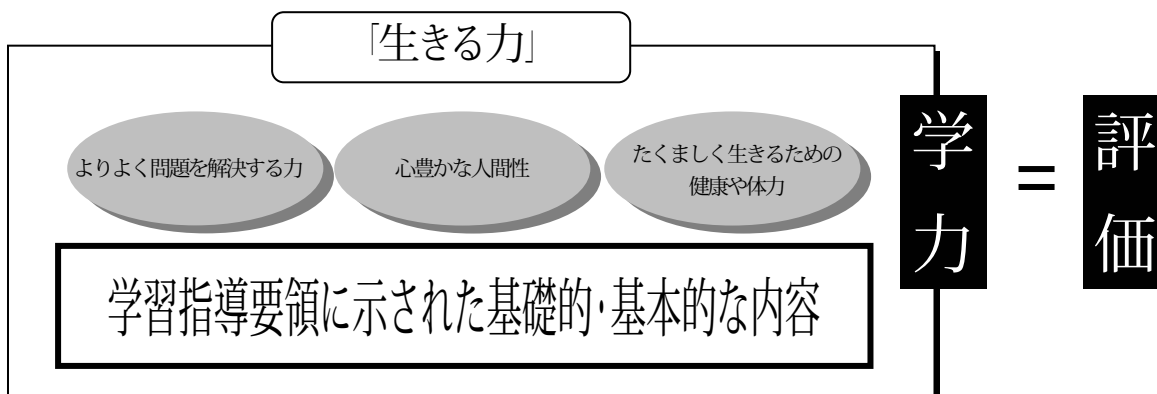
獲得した知識を保持しているだけでなく、絶えずリフレッシュする力

時々の状況に応じて、考えたり、判断したりする力

入手した知識や情報を使って新しいものを生み出す創造性

「生きる力」

- ① 自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力
- ② 自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心
- ③ たくましく生きるための健康や体力



Q 観点別学習状況の評価とは何ですか？

観点別学習状況の評価（以下観点別評価）とは、1つの教科の成績を1つの数値等で評価する総合判定に対して、1つの教科について複数の観点を設け、観点ごとに評価する方法です。


高等学校の科目「体育」では、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「運動の技能」「知識・理解」の4つの観点が、科目「保健」では、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「知識・理解」の3つの観点が示されています。

もちろんこれらの観点は独立したものではなく、相互に関連しあっているもので、総合的に捉えることも大切です。生徒一人ひとりの学習状況を観点別に捉えることによって、教師も生徒も学力を多面的に捉え、何ができて何が不十分なのかを明らかにし、次の指導や学習に生かしていく必要があります。

「関心・意欲・態度」


生徒たちの関心・意欲・態度は、自分が教師や友達から誉められたり、認められたりすることで高まりが見られます。逆に、叱責されたり、期待にそぐわなかったりすると、やる気を失ったり、投げやりになったりもします。さらに、その他の日々の子ども達をとりまく状況によっても変動があります。したがって、この観点は単元全体を対象とし、ある特定の時間のみの評価を代表値としてその単元の評価とすることは避ける必要があります。²⁾

□ 関心・意欲・態度の観点の特徴

 一般的に変化しやすいので、日々の観察の積み重ねが必要です。

この観点は直接見取ることができない観点であり、より客観的に評価するためには生徒の行動、言動、文字記述等により、総合的に判断する必要があります。

□ 具体的な内容

 興味・関心・学習意欲・学習への取り組み姿勢・態度（協調性、公正、責任感、積極性、安全など）

□ 評価規準の表記例 (～しようとする)・・・体育 (～しようとしている)・・・保健

～楽しさを味わおうとする	～協力しようとする	
～健康・安全に注意しようとする	～課題について調べようとしている	
～発言・発表しようとしている	～記録しようとしている	など




「思考・判断」


思考力・判断力は、生徒が課題解決的な学習を行う学習過程の中で培われていくものであると考えます。そのためには「どうしてだろう」「なぜだろう」「どうやればいいんだろう」等の疑問を持てるような学習過程や教材の提示の仕方、発問の仕方を工夫することが必要です。

また、教師と生徒、生徒同士が互いに考えを発表し合う場を意図的・計画的に計画し、学習に組み込んでいくことが重要です。そして、「何についてどのように考えさせるか」「どの程度の考えをまとめさせるのか」等のねらいを明確にして指導し、それに応じた評価規準を設定することが必要です。³⁾

□ 思考・判断の観点の特徴

 課題解決的な学習を行う中で培われていきます。習慣化すると定着し、比較的安定した能力となります。

□ 具体的な内容

 学習状況の把握、課題の発見と設定、課題解決への計画性・方法の工夫、学び方の習得と実践、

自己評価や相互評価での判断力 など。

□ 評価規準の表記例 (～している)

～見付けている	～選んでいる	～まとめている	
～比べている	～整理している		など



「運動の技能」


従来、この観点の指導や評価は、「指導者が与えるもの」といった要素が強かったように思います。これからは、教員の指導の下、生徒自身が自分のものとして習得し、経験した中から身に付けた「技能」、課題解決的な学び方やものの考え方から体得した「技能」が求められます。

技能ではとかく「サッカーのリフティング20回」といった“量”を評価しがちですが、サッカーのリフティングが20回できるための技能、すなわち「膝を柔らかく使って動き、ボール下の中心を蹴る」などという動きの“質”を見取ることが大切です。学習としても20回という回数だけでは、「どうすればできるようになるのか」ということを教えることになりません。20回できるようになるために教える内容が学習の内容となります。よって、この観点の評価は、主として動きの“質”を「観察」によって見取ることになります。

また、「技能」の観点から見える能力は、学習を積み重ねることによって次第に習得されていくものです。よって、指導方法と一体化して、継続的に評価していくことが大切です。

前述したように評価規準に照らして行うこととなりますが、評価する教師の推測や感情に左右されないことが肝要です。生徒一人ひとりの学習状況の事実に着目して、補助簿等に記録をとることによって、習熟度を捉えていくことが大切です。⁴⁾

□ 技能の観点の特徴

 一度習得すると安定した能力として定着します。この高まりは、「模倣（まねをする）」、「操作（考えて動く）」、「自動化（考えなくても動ける）」という段階が考えられますが、体育授業のなかでは「操作」の段階までは目標としたいところです。

□ 具体的な内容

 個人的技能、集団的技能、体力を高めることができる動作 など。

□ 評価規準の表記例 (～できる)

～動きができる	～動作ができる
～運動ができる	など




「知識・理解」

これまでは、ペーパーテストを中心に「知識の量」を評価することが一般的でした。しかし、知識を大量に身に付けても「生きて働く知識」にはなりにくいと考えます。


答申では、「『知識・理解』については、単に覚えこむものと捉えるのではなく、児童生徒が自ら体験して実感を持って学ぶことにより、学習や生活に生きて働くものと捉える必要がある。」と解説しています。

従来からのペーパーテスト中心の評価観から脱却し、口頭試問を行ったり、覚えた知識を使って表現させたり、討論をさせたりするなど、知識を生きて働く形にして表現する学習活動を多く取り入れ、様々な角度から評価できるようにすることが大切であると考えます。

□ 知識・理解の観点の特徴

 生徒が自ら体験して実感を持って学ぶことにより、学習や生活に生きて働きます。

□ 具体的な内容

 運動の特性の理解、運動技能の知識や理解、健康の保持増進の知識、安全に関する知識、
運動のルール、ゲームの進め方

□ 評価規準の表記例 (～している)

～言っている	～書き出している	
～具体例を挙げている	～説明している	など



Q 目標に準拠した評価とは何ですか？

目標に準拠した評価とは、学習指導要領に示す目標に照らして生徒の学習の実現状況を見る評価のことです。

生徒一人ひとりの学習展開に応じて、あらかじめ教育目標を分析して設定した評価規準に照らして、その目標がどの程度実現されたかを評価するものです。

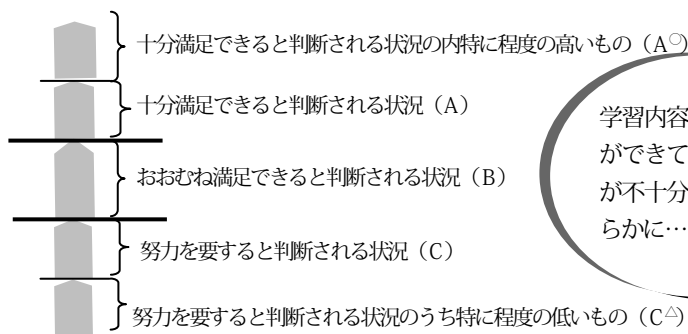
評価規準を事前に設定し、日常の授業の中で直ちにフィードバックして指導や支援に役立てることが重要です。目標に準拠した評価は生徒の学習の実現状況を他者と比較するものではありません。

小学校や中学校では今回の学習指導要領から、指導要録の評定・観点別評価とも集団に準拠した評価から、この目標に準拠した評価に改められました。その理由を答申では次のように説明しています。

- ① 自ら学び、自ら考え、よりよく問題を解決する資質や能力などの評価を重視する必要から、児童生徒一人ひとりの進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し、学習指導の改善に生かすことができる。
- ② 学習指導要領に示す内容を確実に習得したかどうかの評価を一層徹底する必要がある。
- ③ 上級の学校段階の教育との円滑な接続に資する。
- ④ 児童生徒の学習の習熟の程度に応じた指導などの、個に応じた指導を一層重視する。
- ⑤ 少子化等により、学年・学級の児童生徒数が減少してきており、評価の客観性や信頼性を確保する。

図1 目標に準拠した評価⁵⁾

教科の目標や内容に照らして、その実現状況がどの程度の習熟度や達成度かを評価する。(5段階として設定した場合)



学習内容のどこまでできて、どこまでが不十分なのかを明らかに…!

○ 指導の効果の把握及び生徒の努力や進歩の状況の確認がしやすい。

● 具体的な到達規準の設定が必要であり、その判定尺度が明確にされていなければならず、到達の規準をどこにおくか、共通認識を持てるかが問題。

※ 評価規準の作成

「十分満足できると判断される」状況 (A)、「おおむね満足できると判断される」状況 (B)、「努力を要すると判断される」状況 (C) 及び (A) の中でも特に程度の高いもの (A^o)、(C) の中でも特に程度の低いもの (C^A) をどの程度の実現状況とするのか明らかにしておく必要があります。(5段階の場合 A^oと C^Aを設定)

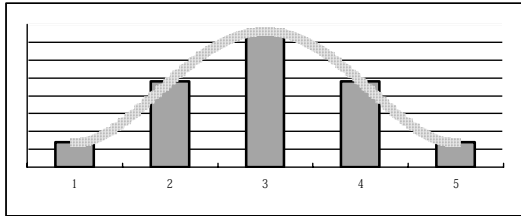
ペーパーテストなどでは〇〇%以上の正答率等で数値化できますが、数値化できないものについては工夫が必要です。例えば、観察による評価であれば、授業中の生徒個々の学習活動についてメモしたりして学習の深まりや高まりなどの質的なデータを蓄積し、単元の総括時に定量化する方法が考えられます。

いずれにしろ、保健体育科・学校全体で、誰にも分かりやすく具体的で、目に見える形で、どの生徒にも公平に評価できる規準を示す努力をする必要があります。



図2 集団に準拠した評価（相対評価）⁵⁾

学年や学級などの集団の中で、相対的な位置付けがどの程度かという学習状況を評価する。



- 集団の中で、個人の位置が明確にされる。
- 学習の進歩や努力の状況がとらえにくい。
- 少子化にともなう母集団の減少により、客観性・信頼性が確保しにくくなった。

一方、集団に準拠した評価（相対評価）は、ある時点での習熟度や達成度を個人間で比較したり、集団の中での位置付けを見たりする評価です。この集団に準拠した評価（相対評価）が生徒にとって全く不必要であるとはいえません。集団内での自分の相対的な位置付けを知ることは、自分の適性を知る手がかりになりますし、これにより自分の目標を定めて学習に取り組む動機付けにもなります。将来の進路を考える際の情報として活用することも考えられます。集団に準拠した評価も必要に応じて行うことが必要です。

これに対して、個人内評価とは、生徒一人ひとりの状態を他者と比較することではなく、個人のよさや可能性を評価することです。個人内の差異に注目した横断的解釈と個人内の時系列的变化に着目した縦断的解釈があります。

例えば、「水泳より陸上のほうが得意である」とか、「去年の50m走の記録より今年は0.5秒も速くなった」などです。

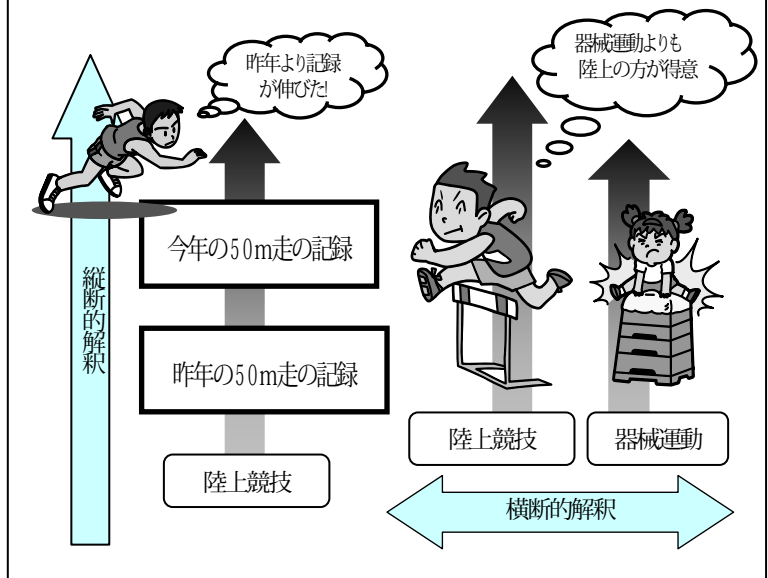
答申においては、「自ら学ぶ意欲や問題解決能力、個性の伸長などに資するよう、個人内評価（児童生徒のよい点や可能性、進歩の状況などを評価）を工夫することも大切である。」としています。

個人内評価は、生徒一人ひとりを多面的な視点で捉えることが必要であるため、教師自身も多様な見方を持つことが必要です。そのためには、生徒の学習プロセスにおける学習活動、製作物、考えたこと、自己評価、相互評価、作文等をファイルし、学習中はもとより、単元や学期、学年終了時に全体を振り返り、生徒の学びを捉え、進歩や可能性を見取る評価の工夫が大切です。

現行学習指導要領の下では、「目標に準拠した評価」がより一層重視され、「個人内評価」の工夫が求められています。

「集団に準拠した評価」と併せたこの3つの評価の特色を生かして、生徒のよさや可能性を伸ばす評価のあり方を教師一人ひとりが考え、学校として共通理解を図った上で、教育活動を行っていくことが重要です。

図3 個人内評価



- 生徒一人ひとりの学習状況を他者と比較することなく評価する。
- 生徒のよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価する。
- 評定にはそぐわない。

Q 学習評価はいつ行うのですか？

学習評価は、学習前・学習はじめの段階での評価（診断的評価）と学習中の評価（形成的評価）によって進められます。学習前の評価によって、これから始めようとする学習に関する能力や感想・経験等を生徒・教師ともに理解し、連続的な学習中の評価によって生徒の変容等を確認し、必要に応じて学習指導の方向性を修正します。

つまり、どんな課題を持って学習したらよいかを学習前・学習はじめの段階での評価によって知り、その学習が予想（期待）通りにうまくいっているかどうかを判断するために学習中の評価を行います。¹⁾

また、学習後（単元の終わりや学期末等）に学習指導の一部あるいは全過程について、当初の目標に照らして、どの程度学習成果が得られたかどうかを把握するために評価（総括的評価）を行います。

これらの学習評価で得られた資料が学習の成果として成績に表したり（通知表）、指導要録に記載する評定にできる限り生かしたりする配慮が必要です。

学習前・学習はじめの段階での評価（診断的評価）

授業の開始時に生徒がこれから学習する領域・種目に関して、どの程度の学力（観点別に）があるかを把握したり、授業の展開にあたって生徒の学習上の難点を発見したりすることを目的に実施する評価のことをいう。

教師

- 単元目標等を設定するために、生徒が学習するのに必要な能力や技能をどの程度身に付けているか知るために診断する。
- 単元に対する準備状況を把握し、目標を具体化し、実態に応じた指導過程を設定するために診断する。

生徒

- 自分が現在持ち合わせている能力や技能を理解し、学習の出発点を確認する。
- これから学習する単元等の見通しを立てるための情報を得る。

学習中の評価（形成的評価）

授業の過程で生徒の学習内容の実現状況（観点別に何ができて、何ができていないか）を明らかにして、ねらいが達成できる授業を実施するために行う評価をいう。

教師

- 生徒が単元の、どこまで達成しているか、どこに困難を感じているのか等を明らかにする。
- 実現されていない技能や内容は何なのかを明らかにする。（何をどのようにすればよいのか情報を得る）

生徒

- 自分の学習の仕方が予想（期待）通りうまくいっているか、修正・改善を加える。

学習の終わり・学習後の評価（総括的評価）

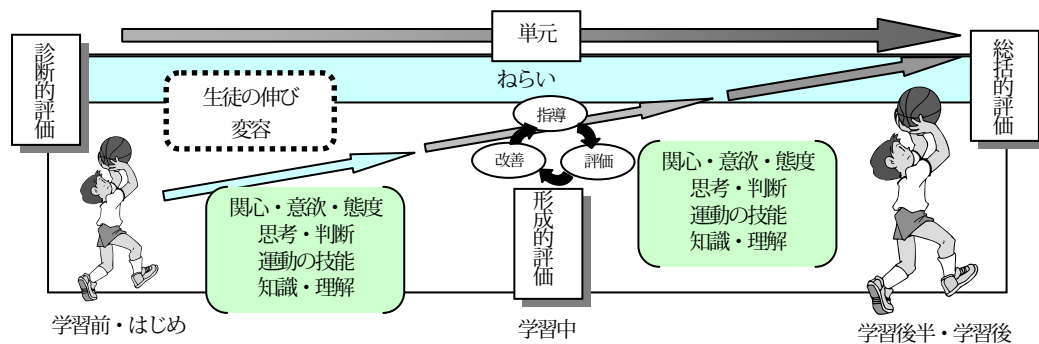
学習の終了時（単元・学期・学年）に学習のねらいに照らして、指導の経過や結果のまとめを行うものである。つまり生徒の学習の達成度を確認し、その結果が満足できない場合は、その問題点が生じた理由を追求して、指導法の工夫・改善を行い、次の学習に役立てるための評価をいう。

教師

- 生徒が単元目標等をどの程度達成したかを確認し、次の指導に役立てる。また、達成度が十分でない場合は、補充指導を行う。
- 指導計画及び学年や単元目標等にそって、望ましい結果が得られたかどうかを確認し、目標・計画・方法の改善に役立てる。
- 次の単元等の準備状況の確認に役立てる。

生徒

- 生徒自身が単元等の全体を振り返り、その目標に照らしての学習の実現状況を把握し、その後の学習に役立てる。



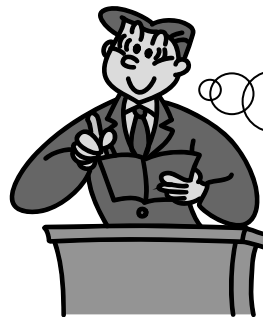
チェック！

形成的評価や総括的評価は生徒をランク付けするためのものではなく、「教師の指導及び生徒の学習の過程の改善、修正」、また、「生徒の学習への動機付けや学びの実態の把握」のために用いられるものです。

Q どんな方法で評価するのですか？

「生きる力」の育成を目指す、現行学習指導要領の下では、児童生徒の学習状況を、単一の時期や方法によって評価するのではなく、児童生徒の成長の状況を総合的に評価することが大切です。

生徒の学習状況を単元の終了時に限らず、単元の途中や1時間の授業中に多面的に見取ることが一層求められています。



この時間のねらいは
〇〇だから、××の観
点を評価しよう！
みんなねらいを理解し
ているかな！？

評価の方法としては、ペーパーテストやスキルテスト以外に観察・面接・質問・レポート・学習ノート・発言などがありますが、それぞれの特徴を考慮し、どんな方法で評価することが生徒の成長や教師の授業の振り返りに役立つかを理解する必要があります。

(表1、表2を参照)



こんな発言があったら、課題がもてたことになるかな？！

例えば、教師の観察は生徒の学習活動を評価するという最も基本的な方法ですが、先入観に影響されないことが必要です。特に「思考・判断」や「関心・意欲・態度」などの見えにくい部分を評価していくためには、生徒が外に表していない部分を読み取っていかなくてはなりません。

そのためには、観察する観点を明確にし、具体的な目標とその際に予想される行動を予め明確にしておく必要があります。

また、学習ノートや感想文などの記述内容も生徒の思考過程を知るために有効な評価方法です。どのような記述から生徒の学習状況が読み取れるか、学習過程のどの時期に評価を行えばよいか等を工夫する必要があります。

(学習評価計画作成の手順編参照)



チェック！

「ポートフォリオ・アセスメント」

ポートフォリオは、もともと芸術家が自分の業績を示すために、長期間にわたり本人が自分の代表作品を紙バサミなどに集録したものです。

教育の分野では、生徒の学習における達成を証明するために生徒の成果を集めたものを指します。

ポートフォリオ・アセスメントとは、このポートフォリオを用いて生徒の進歩の状況を評価することであり、生徒自身も責任ある一員として自分の学習を評価する役割を果たします。

集録には目的に応じて、日誌・学習ノート・ゲーム記録カード・感想文・テスト等々、日常の学習にかかわるものを全て含めます。それらから生徒自身に各段階における成果を検討させ、学習の過程や総括時において、目標の実現状況を振り返らせることが必要です。

辰野千尋著：「学習評価基本ハンドブック」図書文化、2002、2

表1 評価方法の種類と使い方

評価法	使い方
観察法	生徒の観察記録を資料として評価する。毎日あるいは毎月、一定の日時で観察する時間見本法と観察すべき行動の種類をあらかじめ規定しておく行動見本法（チェックリスト）がある。
質問紙法	あらかじめ調査する項目を印刷しておき、生徒に記入させる方法。「ハイ」「イエ」のどちらかに○を付けさせるもの、文章や語句等で答えさせるものなどがある。簡単、具体的で記入しやすいように配慮する。
口頭試験	教師が口頭で質問し、生徒も口頭で答える。予め、発問内容を整理しておくとうい。
実技試験	実地技術や運動技能などの水準を調べる方法。専門家の主観的評価によることが多い。数人の評価で妥当性を高める。
パフォーマンスアセスメント	「何を知っているか」ではなくパフォーマンス（作業や動作）により「何ができるか」を見るアセスメントをいう。
教師作成学力テスト	教師が自分で問題を作成して行う検査。全国的な基準に照らして優劣を知ることはできないが、教師が教えた内容について学習の結果を測定することができる。
標準学力テスト	一定の標本集団から一定の標準問題と標準方法と標準成績を作り、それによって個人を検査し、その成績を標準に照らし合わせて学力を診断する。個人の成績を他人と比較して区別する集団準拠検査と目標に達したかどうかを見る目標準拠検査がある。

辰野千尋：「学習評価ハンドブック」，図書文化，2002

表2 保健体育における観点別学習状況の評価と評価方法の適合関係

評価の方法としては、行動観察・発言・学習ノート・レポートなどがありますが、それぞれの特徴を考慮し、どんな方法で評価することが生徒の成長や教師の授業の振り返りに役立つかを理解する必要があります。

評価法	使い方	関意態	思判	技能	知理
観察 (行動・技能)	生徒の行動を観察し評価する方法。観察すべき行動の種類等をあらかじめ設定しておく。	◎	○	◎	△
発問・発言	生徒の発言内容を評価する方法。予め、発問内容を整理しておく。	◎	◎	△	○
記述分析 (学習ノート等)	記述内容を分析し、評価する方法。記述させる内容を学習内容に合わせて明確化しておく。	○	◎	△	○
ペーパーテスト	問題を作成し、教師が教えた内容について書かせ、学習の成果を評価する方法。	△	○	△	◎

※ ◎…最も適すると考えられる方法 ○…やや適すると考えられる方法 △…あまり適さないと考えられる方法

Q 評価の際、注意する点は何ですか？

「目標に準拠した評価を重視する」これからの評価活動においては、客観性を確保していくことが重要です。評価者によって大きな差が生じたり、どの事実を持ってそういえるのかが明確でなかったりすると、生徒にも保護者にも納得を得られないことになりかねません。場合によっては説明を求められることも考えられます。

評価規準を設け、評価の観点によって方法を工夫して、評価を行うことが必要です。

同じように見えることでも、学習のねらいや評価の観点によって異なった評価になることもあります。学習目標に照らして、実現していると認められる具体的な状況を教師間で共通理解をして、授業に臨むことが大切です。

また、教科・学年・単元・1単位時間等のねらいと評価規準を予め、生徒や保護者に提示し、学習や評価に関して、共通理解を得ることも重要です。

図4 生徒と教師の評価の共有化(説明責任)

単元レベルの具体的共有化

① 教科の目標	学習の目的は何か	※ 教育課程・評価規準の基本表を生徒向けに作成し、配付するとよい。
② 学習の内容	何が分かればよいのか	
③ 教科の評価規準	何がどのくらい分かる必要があるのか	
④ 教科の観点別評価の方法	どのような方法で評価するのか	※ 具体的な学習内容を使って、説明する。 定期考査などの機会に学習の方法等の指導・支援を行う。
⑤ 教科の観点別評価の到達ライン	どこまで到達すれば「おおむね満足した状況」になるのか	
⑥ 目標に準拠した評価の説明と評定の算出方法	観点別評価からどのように総括し、評定とするのか	
⑦ 教科の学習方法	どのように学習すれば「十分満足した状況」になるのか	※ 評価について相談できる雰囲気や場を提供する。
⑧ 評価の不安・疑問の解消	「どうすれば『十分満足した状況』になるの?」「他のクラスも規準は同じ?」など	

(参考：横浜市中学校長会編：「評価・評定のマニュアル」2002)



チェック!

評価者が規準に照らして解釈し判断する評価は、なるべく主観を排する努力をしますが、客観的な評価を心掛けていても陥りやすい傾向があると従来より指摘されています。

例えば、何か目立つ良い(悪い)特徴を持っている生徒を実態よりも良く(悪く)判断してしまうといった「ハロー効果」や感じの良い好意の持てる生徒の判断が甘くなったり、あまり好きではない生徒の判断が厳しくなりがちといった、教師が生徒に抱く感情によって判断が左右されてしまう「寛容効果」などです。⁶⁾

これらを払拭するために、時には複数の教師で評価のすり合わせをし、客観性を高めることが必要です。

Q 評価を組み入れた年間授業計画(シラバス)の作成方法は？

シラバスとは各学校の教育活動に関する詳細な計画書のことです。

シラバスには、教科、科目をはじめとするさまざまな教育活動について、目標と内容、使用教材、指導計画、指導方法、評価方法等が記載されます。

シラバスは、生徒にとって履修科目を選択する際の重要な資料となり、生徒を主体的な学びに導きます。

シラバスに評価規準を記載することにより、教員も生徒も教科・科目等で扱う学習内容について、評価の視点となる評価規準をしっかりと意識することができます。そのことにより目標に向けた学習が実現しやすくなり、生徒がより意欲を持って学習に取り組むこととなります。

シラバスは詳細な授業計画として生徒が利用するだけでなく、教員相互の授業内容の調整、さらには家庭や地域への情報提示方法の一つとして、開かれた学校づくりに活用できます。⁷⁾

シラバス作成のポイント

- 内容の工夫 → 生徒・保護者及び教員が学習計画や展開等の見通しを持ちやすくする
- 視覚面の工夫 → 絵や図表を用いて、読みやすく、視覚的に捉えやすくする
- 学習目標を明らかにする → 生徒のモチベーションが高まり、持続できるようにする
- 計画変更の際の対応を示す → 実施過程での変更もあることに触れ、変更への対応の仕方が分かるようにする
- 評価・改善の資料とする → 授業の評価・改善の重要な資料として、学校教育の新たな方向性を示すことができるようにする

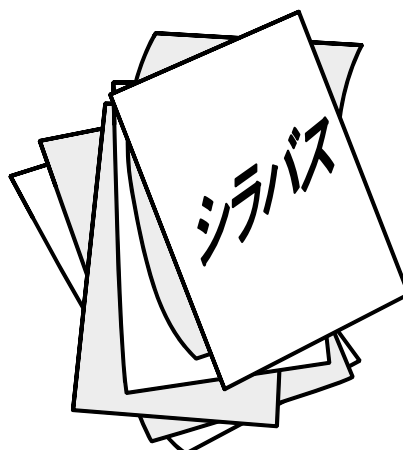
シラバスに記載すべき内容

シラバスは幅広い役割を持ちますが「保健体育科」としては次のような内容が求められます。

- ① 保健体育科の構成等の全体像 → 学年や系・系列に応じた設置科目の一覧、科目の設置学年と単位数等の記載
- ② 保健体育科の学習到達目標 → 学習の終了後に到達すべき学力等についての記載
- ③ 保健体育科の指導計画 → 学習のねらい、学習内容、学習形態、進捗等に関する記載
- ④ 保健体育科の評価の観点・方法 → 評価の観点や評価規準等の具体的な内容についての記載

シラバスに盛り込みたい内容

- 学校教育目標
- 教科の目標
- 年間計画、配列(学習内容・時数)
- 学習のねらい
- 評価の観点・方法
- 体育的行事の計画
- 使用教材 等

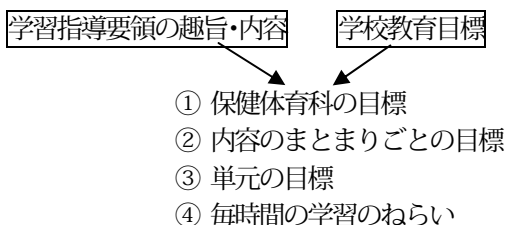


Q 評価規準はどのように作成すればよいのですか？

保健体育科の評価規準を作成するにあたり、次の点に配慮しましょう。

第1段階 = 目標の設定

- 評価規準の設定は、学習指導要領のねらい、学校教育目標から順次、具体的な単元の目標、毎時間の目標へと、次の手順で設定していきます。



チェック！

目標は、実際の授業に近づくにつれ、より具体的になります。常に、学習指導要領のねらい・趣旨を踏まえているか、学校教育目標等の趣旨を反映しているかをチェックしましょう。

第2段階 = 評価規準の作成

- 各目標の内容を分析し、学年ごとにどのようなことを生徒が実現(達成)したり、身に付けたりすべきかを「4つの観点」（保健は3観点）に分けて、次の手順で評価規準を作成していきます。

- ① 保健体育科の評価規準の設定
- ② 内容のまとまりごとの評価規準の設定
- ③ 単元の評価規準の設定
- ④ 学習活動における具体的評価規準



チェック！

これが基本的な評価規準となります。この評価規準で見取った資料等を集積し、評定につなげます。

目標の実現状況がどの程度で、「十分満足できると判断される」状況（A）、「おおむね満足できると判断される」状況（B）、「努力を要すると判断される」状況（C）、（A）の中でも特に程度の高いもの（A[○]）、（C）の中でも特に程度の低いもの（C[△]）とするのかを明らかにしておく必要があります。（5段階の場合）

評価規準の具体例では、できるだけ行動目標的な表現、子どもの学習活動がイメージできる表現となるようにします。

規準の示し方としては、数量的な達成、到達の度合いを指す「基準」ではなく、学習指導要領の目標に照らした実現状況、即ち新しい学力観に立って子ども達が自ら獲得し身に付けた資質や能力の質的な実現状況を指す「規準」を用います。参考；評価規準の作成について（元文部科学省体育官 戸田芳雄）

第3段階 = 「おおむね満足できる」と判断される状況（B）の確認

- 第2段階で作成した評価規準が保健体育科の「基礎・基本」（全ての生徒が身に付けるべき内容）であることを確認し、「おおむね満足できる」と判断される状況を確認します。

第4段階 = 評価規準の工夫・改善

- 観点ごとの総合的な評価は、毎日の学習評価の積み重ねから得ることができます。作成した評価規準が妥当であったかどうかを見極めながら、各規準を細分化したり、項目を整理したりして、生徒の実態に即した内容になるよう工夫・改善を繰り返す必要があります。

（参考；日野 宏「学習評価をどう工夫するか」2003. 8）

具体の評価規準作成上の基本的な原則



タテ（縦）の整理（教科・領域→単元→具体例の一貫性を図ります）

- 内容のまとまりごとの評価規準で使用した用語は避け、より具体的に表現します。
(例 公正な態度をとろうとする → 勝敗や結果を受け止めようとする[関心・意欲・態度])
- 文末は、観点で特徴的な姿や学習行動を表現する動詞（キーワード）とします。
(例 課題を見付けている[思考・判断、言ったり書き出したりしている[知識・理解等])
※上記2項目で、縦を配慮して作成します。

ヨコ（横）の整理（観点間の表現の重複や紛らわしい表現を避ける）

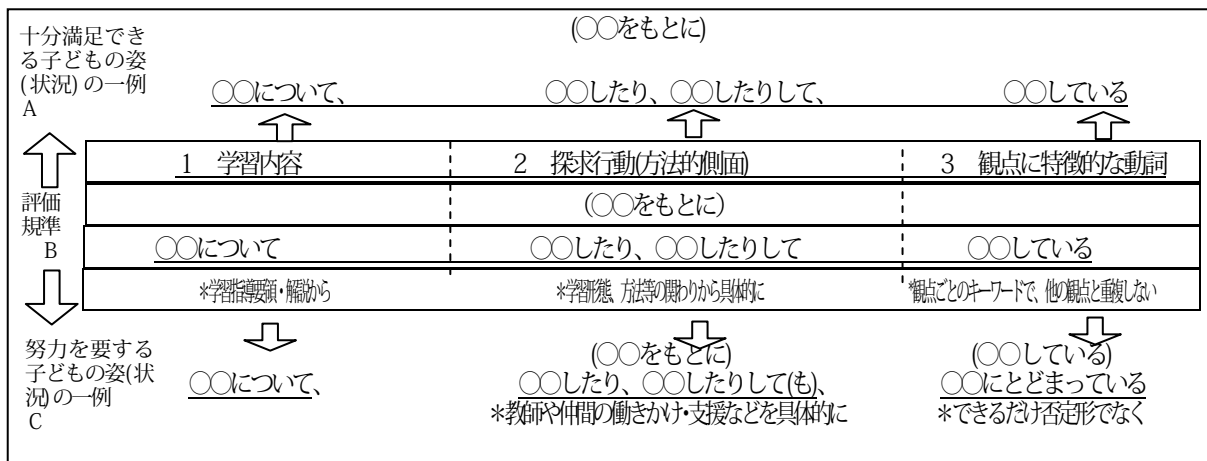
- 混乱を避けるため、観点間で同じ表現や似た表現を使用しません。
(例 課題を見付けようとする[関心・意欲・態度]と課題を見付けている[思考・判断]…前者では使用しません)

高さの整理（同じ軸で質の高まりを表現する）

- 多面的に評価するため、「おおむね満足できると判断される」状況（B）を複数の視点から設定し、それぞれに「十分満足できる」及び「努力を要する」状況と判断できる学習活動（方法的側面）の例を学習形態・内容等との関わりで予測し、明らかにしておきます。
(例 「技能」パス、レシーブの動作ができる（B）→タイミングよく、パス、レシーブの動作ができる（A）、タイミングが悪く、パス、レシーブの動作ができないときがある（C）。)

具体の評価規準にみる3文節の構造と、質的な高まりに伴う表現の変化

基本的には、学習内容、探求行動（方法的側面）、観点到特徴的な動詞の3つの部分に分けて表現します。（体育の場合、多くは「2 探求行動（方法的側面）」と「3 観点到特徴的な動詞」で表現されています）こうしたことを参考にして、各学校で作成する評価規準については、学習内容、学習形態・方法、生徒の実態等に応じて工夫してください。



参考：学習活動における具体の評価規準の構造、2004年9月（文部科学省 戸田芳雄）



チェック！

- 客観性を高めるための手立て
 - あらかじめ本時の評価の観点を絞り込み、その観点について数名の評価者で着目生徒（「十分満足できると判断される」状況（A）、「おおむね満足できると判断される」状況（B））を評価します。
 - 授業終了後、評価結果を持ち寄り、評価のすり合わせを行います。
 - 結果を分析し、評価規準の規準性に問題があるのか、評価者の評価する観点（評価する目）がずれているのかを判断し、整合性を図ります。

Q 指導と評価の一体化とはどういう意味ですか？

学校の教育活動は、計画→実践→評価→改善という一連の活動を繰り返しながら、生徒のよりよい成長を目指した指導が展開されなければなりません。

すなわち、指導と評価は別物ではなく、評価の結果によって後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、指導に生かす評価を充実させること（いわゆる指導と評価の一体化）が重要です。

評価は、学習の結果に対して行うだけでなく、学習指導の過程における評価の工夫を一層進めることが大切です。また、生徒にとって評価は、自らの学習状況に気付き、自分を見つめ直すきっかけとなり、その後の学習や発達を促すという意義があります。

自ら学び自ら考える力などの「生きる力」は、日々の教育活動の積み重ねによって生徒に育まれていくものです。そのためには、日常の指導の中で、評価が生徒の学習の改善に生かされることが重要です。

また、目標に準拠した評価においては、生徒の学習の到達度を適切に評価し、その評価を指導に生かすことが重要です。そのため評価活動を、評価のための評価に終わらせることなく、指導の改善に生かすことによって、指導の質を高め、よりよい授業を実現することが重要です。



指導と評価の一体化の意味

教育活動は、計画→実践→評価→改善という一連の活動を繰り返しながら生徒のよりよい成長を目指して指導が展開されなければなりません。指導と評価は別ものではないという考え方です。

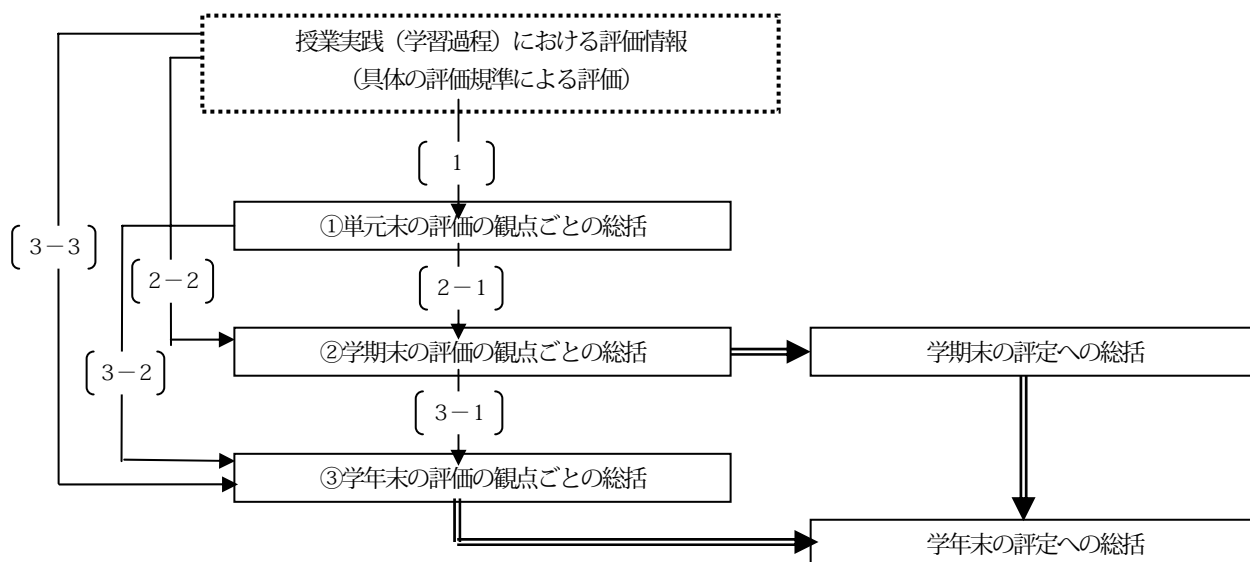
- ・学校教育目標
- ・教科目標
- ・学年目標
- ・単元目標
- ・毎時の目標

- 「生きる力」は日常の教育活動の積み重ねで育まれるもので、つねに評価が学習の改善に生かされなければなりません。
- 「基礎・基本の確実な定着」には、生徒の学習到達状況を適切に評価し、その結果が次の指導に生かされなければなりません。

新潟県立教育センター：「これからの学習評価」平成14年5月

Q 評価から評定へつなげるにはどうすればよいのですか？

観点別学習状況の評価の観点ごとの総括は、単元末、学期末、学年末に行うことが考えられます。評定への総括は、学期末や学年末などに行うことが考えられます。具体的な総括の流れとしては、次のように、いくつか考えられます。



(参考:「学習評価の工夫改善に関する調査研究 国立教育政策研究所 平成16年3月)

総括時期ごとの総括方法について

① 単元末における観点ごとの評価の総括

[1] 学習活動における具体的評価規準で見取った評価を、観点ごとに総括します。

② 学期末における観点ごとの評価の総括

学期末における総括の方法は次のような方法が考えられます。

[2-1] 単元ごとに総括した観点ごとの評価を、さらに学期末で総括する方法

[2-2] 学習活動における具体的評価規準で見取った評価を単元でまとめず、そのまま学期末の総括に結びつける方法

③ 学年末における観点ごとの評価の総括

学年末における総括の方法は次のような方法が考えられます。

[3-1] 学期末に総括した観点ごとの評価を、さらに学年末で総括する方法

[3-2] 単元ごとに総括した観点ごとの評価を学期末でまとめず、そのまま学年末の総括に結びつける方法

[3-3] 学習活動における具体的評価規準で見取った評価を、単元や、学期末でまとめず、そのまま総括に結びつける方法

ポイント！

○ 総括では、数値化（合算・平均化）する方法や組合せによる方法でまとめていくことになりますが、誤差を減らすためには、単元・学期末では「仮評価・仮評定」とし、学年末の最後にまとめると精度は高まります。

○ 総括された結果は、生徒や保護者に知らせることはもちろん、次年度の指導の重点や、指導計画の改善に役立てることが大切です。

それぞれの総括の方法のメリット・デメリットを考え、各学校で工夫しましょう。



総括の具体的な方法には、次の二つを考えることができます。

- 1 評価結果をA、B、Cなどで表し、その組合せなどで判断する考え方
- 2 A=3点、B=2点、C=1点などのように記号で表した評価結果を数値化し、これを合計したり、平均したりするなどして判断する考え方

1 組合せによる方法（A、B、Cとした場合の例）

A、B、Cなどの、組合せでの総括結果をあらかじめ設定しておきます。例えば「A B B B」ならばBと総括します。なお、「A A B B」の総括結果をAとするかBとするかなど、同数の場合や三つの記号が混在する場合の総括の仕方をあらかじめ決めておく必要があります。

2 数値化による方法（A=3点、B=2点、C=1点とした場合の例）

上記の点数の平均値に対応した判断の基準をあらかじめ設定しておきます。例えば、〔総括の結果をBとする判断の基準を $1.5 \leq \text{平均値} \leq 2.5$ 〕とすると、「A B B」の平均値は、 $2.3 [= (3+2+2) \div 3]$ で総括結果はBとなります。

※ 評定の5は「十分満足できると判断されるもののうち、特に程度の高いもの」であり、観点別学習状況の評価（A）は、その実現状況に幅があると言えます。よって当ハンドブックでは（A）と（C）を2段階に細分化した5段階で例示しています。

A B Cよりも、A[○]A B C C[△]の方が、5段階評定へより正確につながられるというメリットがあります。



A[○] 十分満足できると判断される状況のうち、特に程度の高いもの

A 十分満足できると判断される状況

B おおむね満足できると判断される状況

C 努力を要すると判断される状況

C[△] 一層努力を要すると判断される状況

《各観点の重み付けについて》

重み付けについては、各単元の時間数により重みを付ける方法と、各観点到に重み付ける方法が考えられます。後者の方は、観点別評価の趣旨を踏まえ、4つの観点の評価をバランスよく評定につなげることが基本ですので、重み付けをする場合は、極端な重み付けは避け、その理由を生徒・保護者に十分説明できるようにしておく必要があります。

— 引用参考文献 —

- 1) 宇土正彦他編著：「体育科教育法講義」大修館書店 1992. 10
- 2) 日野 宏：「保健体育ジャーナル」68号 学習研究社、2004. 1
- 3) 川崎市教育センター：「新学習指導要領とこれからの評価」—評価を授業に生かすために—平成13年11月
- 4) 佐野金吾・児島宏編著：「新しい評価の実際」—生きる力を育てる評価（第2巻）— ぎょうせい、2001. 7
- 5) 新潟県教育センター：「これからの学習評価」平成14年5月
- 6) 佐野金吾・児島宏編著：「新しい評価の実際」—生きる力を育てる評価（第1巻）— ぎょうせい、2001. 7
- 7) 神奈川県立総合教育センター：「高等学校シラバス例集」平成16年2月
- 8) 財) 日本学校保健会：「意志決定・行動選択の力を育てる高等学校保健学習プラン」
- 9) 文部省：「体づくり運動」—授業の考え方と進め方— 東洋館出版社、平成12年3月
- 10) 佐々木 圭：「平成14年度 神奈川県立体育センター学校体育長期研修報告書」 神奈川県立体育センター、平成15年3月

理論編

評価計画作成の手順

..... P 1 7 ~ P 2 4

評価計画作成の手順

保健体育科の目標作成はどう進めていくのですか？

- (1) 各学校では、学校目標等を達成するために各教科の特性に応じて目標が設定され、その目標達成に向けた教育活動が展開されます。保健体育科でも学校目標等を受け、心と体を一体として捉えることを重視しながら、保健体育科が学校目標等のどの部分を担っていくかを吟味して教科の目標を設定します。そして、その目標を達成できるような学習内容を組み立て、その実現状況を評価していく必要があります。
- (2) 保健体育科の目標を設定する際に、学校の状況や生徒の状況等を把握するためのアンケート調査や身体状況調査などを行い、学習指導要領に示されている目標を踏まえ、各学校における保健体育科の目標作成に反映させていくことが大切です。

【目標作成の手順】例

《生徒の状況を把握するためのアンケート内容》

興味・関心、経験に関する内容

- ・ 運動などの楽しさ、好き、嫌い、健康・安全への意識など
- ・ 日頃の運動の程度
- ・ 仲間との関わり経験（協力・教え合い・励まし合いなど）
- ・ 運動の有能感

運動の技能や体力に関する内容

- ・ 経験した運動の種類と程度
(実際の技能はペーパーでは見取れません)

運動の学び方や思考・判断に関する内容

- ・ ねらいや課題を意識して取り組んでいるか
- ・ 工夫して運動に取り組んでいるかなど

知識・理解に関する内容

- ・ 運動の特性やルールの知識と理解の程度
- ・ 運動の行い方に関する知識や理解の程度



- 運動の楽しさを深く味わう生徒
- 健康や体力を意識して、体力を高めていく生徒
- 自分の運動や健康の課題解決を目指して取り組んでいける生徒
- 仲間と協力し、教え合ったり、励まし合ったりしながら学習できる生徒

目指す生徒の姿ま…!

学習指導要領に示されている目標

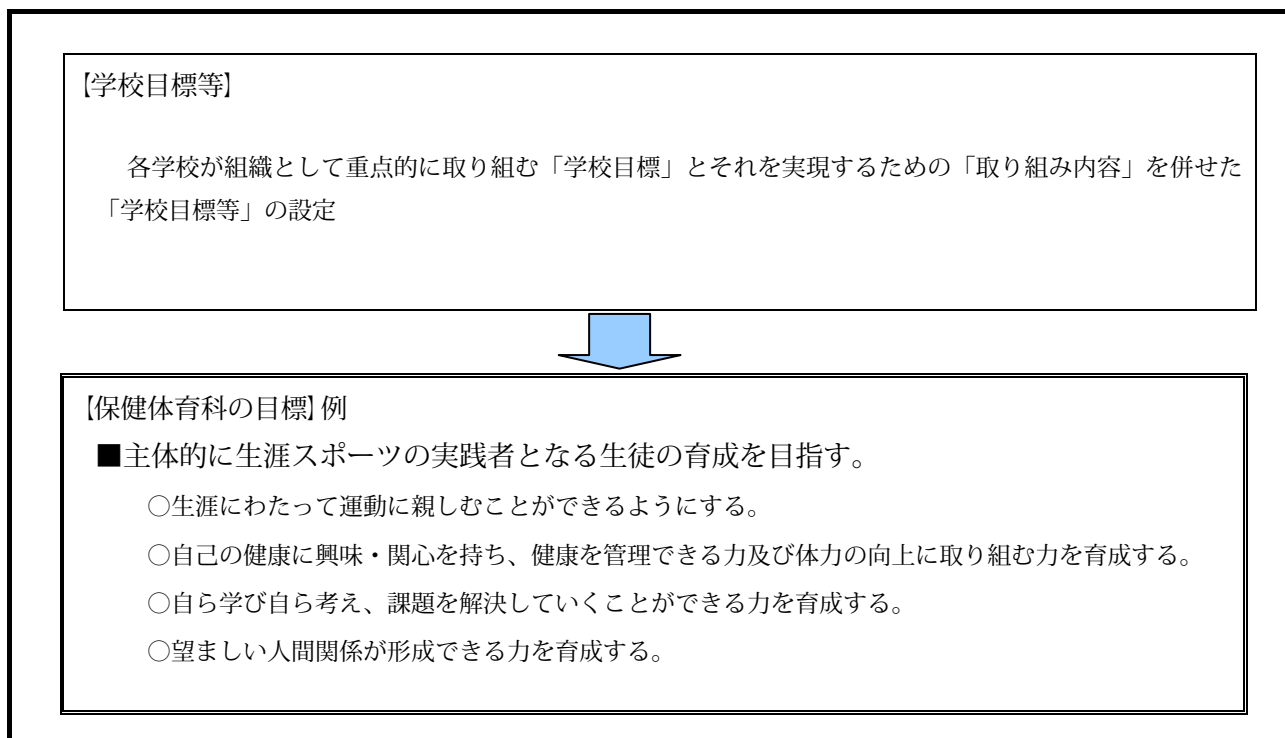
保健体育科の目標

体育・保健の目標

各学年ごとの目標

生徒の実態
保護者の願い
教師の思い

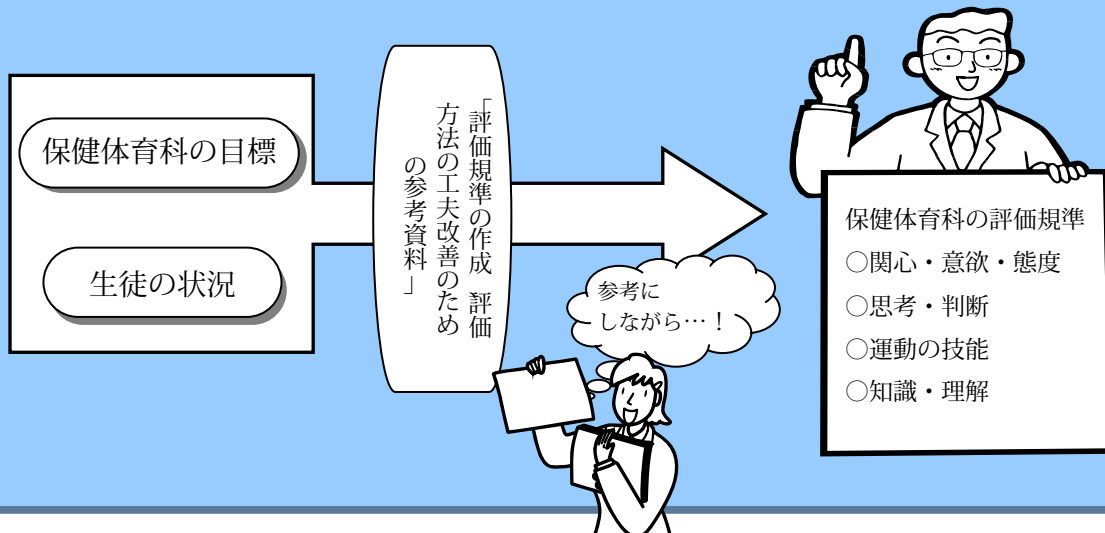
学校目標等から保健体育科の目標を導く例



保健体育科の評価規準を作成していく手順は？

設定した保健体育科の目標に対して指導したことが、生徒にとって効果的なものであったかどうか、目標は目指す生徒像を反映してのものであったか等を見取るために、国立教育政策研究所教育課程研究センターの「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料」を基に、各学校で設定した保健体育科の目標と生徒の状況との結び付きを持たせ、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「運動の技能」「知識・理解」の4観点で目標に準拠した評価規準を作成し、保健体育科が果たさなければならない教育の実現を目指して観点別に評価していくことが大切です。

保健体育科の目標から評価規準を作成していくポイント

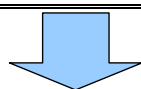


Q 目標と評価規準をどう結び付けるのですか？

各学校で設定した保健体育科の目標と生徒の状況を結び付け、次に示すように 4 観点（保健は 3 観点）で評価規準を作成していきます。

【保健体育科の目標】例

- 主体的に生涯スポーツの実践者となる生徒の育成を目指す。
- 生涯にわたって運動に親しむことができるようにする。
- 自己の健康に興味・関心を持ち、健康を管理できる力及び体力の向上に取り組む力を育成する。
- 自ら学び自ら考え、課題を解決していくことができる力を育成する。
- 望ましい人間関係が形成できる力を育成する。



評価の観点及びその趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで計画的に運動しようとする。また、個人生活や社会生活における健康・安全に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、運動の合理的な行い方や計画的な活動の仕方を考え、工夫している。また、個人生活や社会生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断している。	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに、体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。	生活における運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解し、知識を身に付けている。また、個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、身に付けている。


(国立教育政策研究所教育課程研究センター「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料」より)

目標と評価規準の結びつき例

目 標	評価の観点
○運動の楽しさや喜びを深く味わえる力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで計画的に運動しようとする。 (関心・意欲・態度) ・運動の楽しさや喜びを味わうとともに、体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。 (運動の技能)
○課題を解決していくことができる力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の解決を目指して、運動の合理的な行い方や計画的な活動の仕方を考え、工夫している。 (思考・判断)
○自己の健康を管理できる力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、身に付けている。 (知識・理解)

Q 学年ごとの体育・保健の目標作成はどう進めていくのですか？

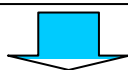
- (1) 保健体育科の目標を受けて、学習指導要領に示されている目標、体育・保健の科目の特性、各学年で取り扱う内容等に照らし合わせて、3年間の系統性と発展性を考慮して体育・保健の目標と評価規準を作成することが大切です。
- (2) 体育・保健の目標を設定する際に、学校の状況や生徒の状況等を把握するためのアンケート調査や身体状況調査などを行い、3年間を見通した学年ごとの体育・保健の目標を設定していくことが大切です。

 (P15の目標作成の手順図参照)

保健体育科の目標から学年別の体育・保健の目標を導く例

【保健体育科の目標】例

- 主体的に生涯スポーツの実践者となる生徒の育成を目指す。
- 生涯にわたって運動に親しむことができるようにする。
- 自分の健康に興味・関心を持ち、健康を管理できる力及び体力の向上に取り組む力を育成する。
- 自ら学び自ら考え、課題を解決していくことができる力を育成する。
- 望ましい人間関係が形成できる力を育成する。



【1学年の目標】例

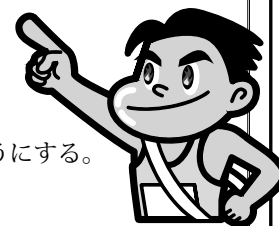
- 基礎的な運動技能を身に付け、運動する楽しさや喜びを味わえるようにする。
- 自分の健康に興味・関心を持ち、体力の高め方を身に付けながら、運動できるようにする。
- 適切な意志決定、行動選択の重要性を理解できるようにする。
- 学び方を身に付け、活動の仕方を工夫して運動できるようにする。
- 自分やグループの課題解決を目指して、教え合い、励まし合いながら運動できるようにする。

【2学年の目標】例

- 身に付けた技能を高めながら、運動する楽しさや喜びを味わえるようにする。
- 健康を意識し、自分に合った体力の高め方を身に付けながら、運動できるようにする。
- 健康について科学的に思考したり、判断したりできるようにする。
- 自分やグループの課題解決を目指し、活動の仕方を工夫して、運動できるようにする。
- 自分の役割を意識し、仲間と教え合い、励まし合いながら運動できるようにする。


【3学年の目標】例

- 自分が選択した運動の特性に応じた楽しさや喜びを深く味わいながら運動できるようにする。
- 身に付けた技能で、自分の体力や生活に応じて運動できるようにする。
- 運動の特性に応じた課題解決の仕方を工夫し、計画的に運動できるようにする。
- 身に付けた力を発揮しながら、仲間と協力し、教え合い励まし合いながら運動できるようにする。



Q 各学年の体育・保健の評価規準を作成していく手順は？

評価規準作成の手順に沿って立案した各学年ごとの体育・保健の目標に基づいて、体育の評価規準は「関心・意欲・態度」「思考・判断」「運動の技能」「知識・理解」の4つの観点で、保健の評価規準は「関心・意欲・態度」「思考・判断」「知識・理解」の3つの観点で、目標に準拠した評価規準を作成していくことになります。そして、それらの観点それぞれについても目標の達成状況を評価していくことが大切です。

 (P16 の評価規準作成のポイント図参照)

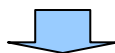
Q 各学年の目標と評価規準をどう結び付けるのですか？

各学校で設定した保健体育科の目標と生徒の状況を結び付け、次に示すように評価規準を作成していきます。

目標と評価規準の結びつき例

【1学年の目標】例

- 基礎的な運動技能を身に付け、運動する楽しさや喜びを味わえるようにする。
- 自分の健康に興味・関心を持ち、体力の高め方を身に付けながら、運動できるようにする。
- 適切な意志決定、行動選択の重要性を理解できるようにする。
- 学び方を身に付け、活動の仕方を工夫して運動できるようにする。
- 自分やグループの課題解決を目指して、教え合い、励まし合いながら運動できるようにする。



各科目の評価の観点及びその趣旨

科目名	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
体育	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで運動をしようとする。また、公正、協力、責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して運動をしようとする。	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の技能を高めている。また、自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。	社会の変化とスポーツ、運動の技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し知識を身に付けている。
保健	個人生活や社会生活における健康・安全に関心を持ち、意欲的に取り組もうとする。	個人生活や社会生活における健康・安全について課題の解決を目指して考え、判断している。	/	個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。

(国立教育政策研究所教育課程研究センター「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料」より)

目標と評価規準の結びつき例

目 標	評価の観点
○自分の健康に興味・関心を保ち……	・(保健) …個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践するため、意欲的に取り組もうとしている。(関心・意欲・態度)
○適切な意志決定、行動選択の重要性について理解する。	・(保健) …適切な意志決定を行い、選択すべき行動を適切に判断している。(思考・判断)
○課題解決を目指して、	・(保健) …健康・安全の意義を理解するとともに…課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。(知識・理解) ・(保健) …心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して…(思考・判断)
○学び方を身に付け…	・(体育) …能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。(思考・判断)
○…教え合い、励まし合いながら…	・(体育) …公正、協力、責任などの態度を身に付けるとともに…(関心・意欲・態度)
○体力の高め方を身に付けながら、…	・(体育) …体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し知識を身に付けている。(知識・理解)

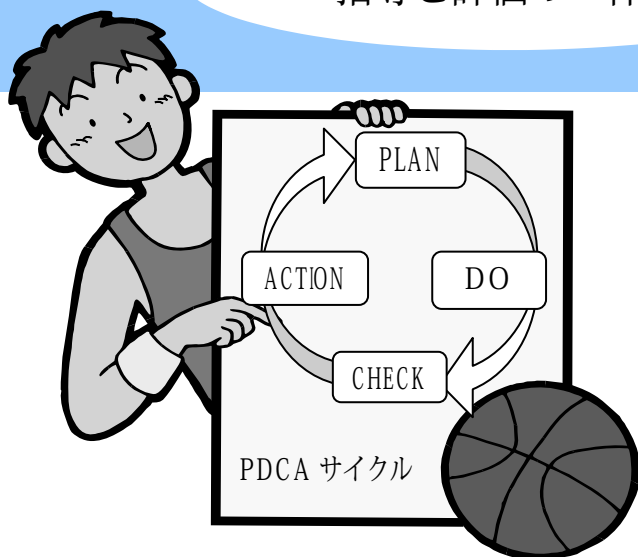
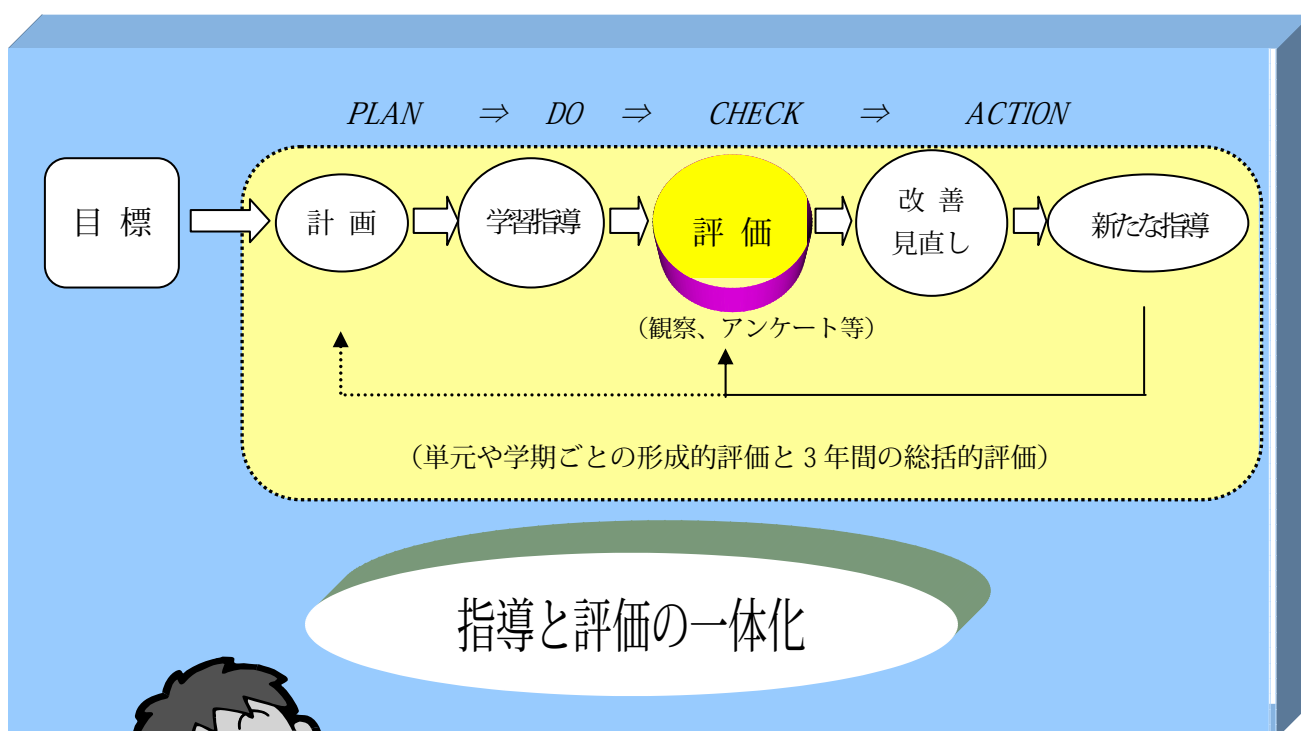


Q 目標の振り返りはどのように行うのですか？

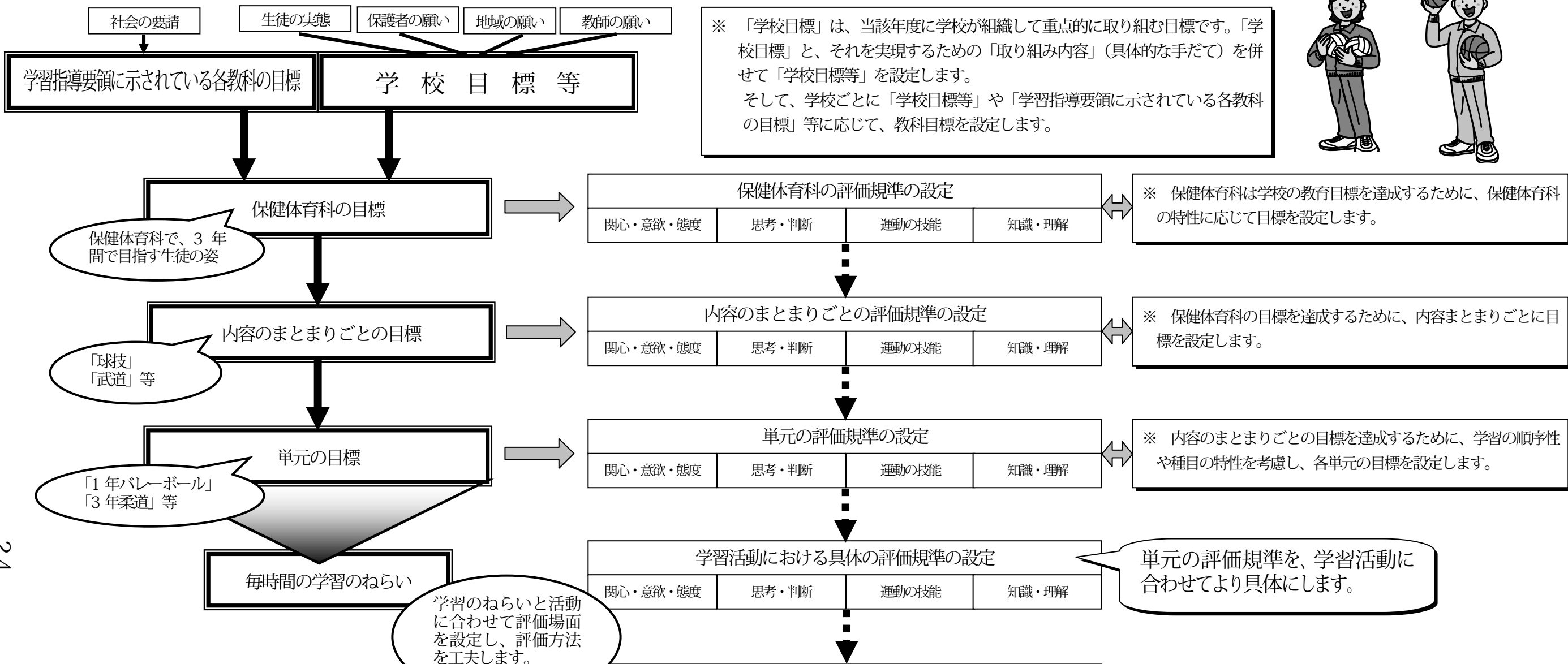
学校における教育活動は、計画 (PLAN) → 実践 (DO) → 評価 (CHECK) → 改善 (ACTION) という一連の活動を伴って展開されます。したがって、学習指導の過程における具体的な評価を工夫し、目標に対しての生徒の到達度を適切に評価し、評価の結果によってその後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価することが求められています。

設定した目標の振り返りにおいても、それぞれの目標に照らして行っていく指導の中で、生徒にどのような成果を身に付けさせることができたか、学習の組み立てはどうか等を把握するために、形成的評価として、学期ごとや単元ごとに観察からの状況をまとめたり、アンケート調査等を行ったりします。また、3年間の総括的な評価として、学期ごとや年度ごとに観察からの状況をまとめたり、アンケート調査等を行ったりします。そしてそれらを多面的、多角的に分析して振り返り、その結果を目標設定や学習指導計画に反映させ、生徒への支援のあり方や学習の組み立て等の改善を図っていくことが大切です。

このような一連の評価活動のサイクルを図に示すと次のようになります。



評価規準作成の手順



保健体育科の評価規準の設定

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
----------	-------	-------	-------

内容のまとまりごとの評価規準の設定

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
----------	-------	-------	-------

単元の評価規準の設定

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
----------	-------	-------	-------

学習活動における具体的評価規準の設定

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
----------	-------	-------	-------

具体的な評価の工夫例

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
方法 観察・質問 問いかけ・学習カード・学習ノート 等	方法 観察・質問 問いかけ・学習カード・学習ノート・レポート・質問紙 等	方法 実技テスト・スキルテスト・発表会・ゲーム 等	方法 ペーパーテスト・レポート・学習ノート 等
場面 毎時間の学習中	場面 毎時間の学習中	場面 学習経験やこれまでの習得状況 学習途中、まとめ	場面 学習途中の小テスト 定期テスト 等

生徒の成長に役立つ評価!

授業の改善に役立つ評価!



理論編

体育について P 2 5 ~ P 3 0

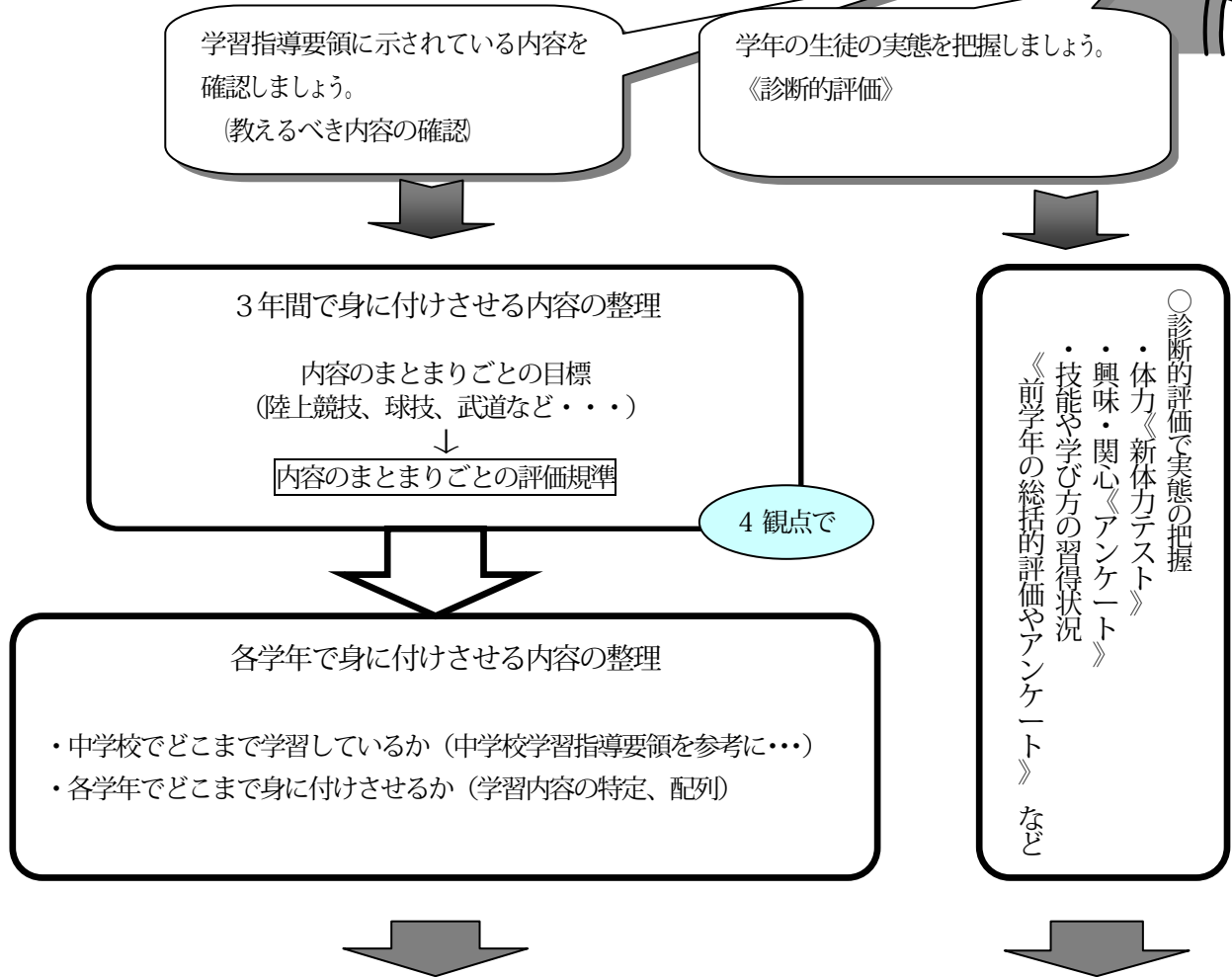
保健について P 3 1 ~ P 3 6

体育について

Q 単元の目標を設定するには？

学習指導要領の内容を踏まえて、3年間で身に付ける内容（内容のまとめりごと）を整理し、さらに各学年で身に付ける内容を整理して、単元の目標を設定します。

その際次のことに注意しましょう。



単元の目標例(2学年バレーボール)

- バレーボールの三段攻撃とレシーブフォーメーションに着目して、作戦を立てて勝敗を競い合うバレーボールの楽しさや喜びを味わおうとするとともに、練習やゲームではチームにおける自分の役割を果たし、協力して教え合ったり励まし合ったりしようとする。また、ゲームでは審判の指示に従い、ルールを守り、勝敗や結果を受け入れようとするとともに、活動場所の安全を確かめ、健康、安全に留意して練習やゲームをしようとする。
- チームや自分の能力に応じた適切な課題を設定し、チームや自分の課題を解決するための適切な練習方法などを選んだり、見付けたりできるようにする。また、技能の段階に応じて相手との攻防にあった作戦を立てることができるようにする。
- 相手のサーブに応じたレシーブフォーメーション、レシーブ、トス、スパイクの三段攻撃を使ってゲームができるようにする。
- バレーボールの集団的技術の構造、技能を高めるための合理的な練習の仕方、練習計画の立て方、ルール、審判法及び競技会の企画や運営の仕方について言ったり、書き出したりできるようにする。

Q 単元の評価規準を作成していくためには？

領域の評価規準（国立教育政策研究所の「内容のまとまりごとの評価規準」を参考）をもとに、単元の目標を学習活動に当てはめ、単元の評価規準を設定します。

その際、次のことに注意しましょう。



目標に対する実現状況を見るために、目標を具体的に表現しましょう。



指導にフィードバックできるよう学習の組み立てを考慮しましょう。



国立教育政策研究所の評価規準例を参考にしましょう。



単元の目標例(2学年バレーボール)

- ①バレーボールの集団的技能に着目して…
- ②チームや自分の能力に応じた課題を設定…
- ③チームや自分の能力に応じてゲームが…
- ④主に、バレーボールの集団的技術の構造…

国立教育政策研究所

「内容のまとまりごとの評価規準」(球技)

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
球技の特性に関心をもち、楽しさや喜びを味わえるようチームにおける…	チームや自分の能力に応じた課題を設定し、その解決を目指して…	チームの課題や自分の能力に応じて、選択した球技種目の特性に応じた…	選択した球技種目の特性に応じた技術の構造や技能を高めるための…

(単元の評価規準例(2年バレーボール))

関心・意欲・態度 《目標の①より》	思考・判断 《目標の②より》	運動の技能 《目標③より》	知識・理解 《目標の④より》
バレーボールの三段攻撃とレシーブフォーメーションに着目して、作戦を立てて勝敗を競い合うバレーボールの楽しさや喜びを味わおうとするとともに、練習やゲームではチームにおける自分の役割を果たし、協力して教え合ったり励まし合ったりしようとする。また、ゲームでは審判の指示に従い、ルールを守り、勝敗や結果を受け入れようとするとともに、活動場所の安全を確かめ、健康、安全に留意して練習やゲームをしようとする。	チームや自分の能力に応じた適切な課題を設定し、チームや自分の課題を解決するための適切な練習方法などを選んだり、見付けたりしている。また、技能の段階に応じて相手との攻防にあった作戦を立てている。	相手のサーブに応じたレシーブフォーメーション、レシーブ、トス、スパイクの三段攻撃を使ってゲームができる。	バレーボールの集団的技術の構造、技能を高めるための合理的な練習の仕方、練習計画の立て方、ルール、審判法及び競技会の企画や運営の仕方について言ったり、書き出したりしている。

単元における「目指す生徒の姿」を具体化するために、評価規準もさらに具体化していきましょう！

○ 具体の評価規準を作成していくためには？



学習活動における目標、つまり「目指す生徒の姿」をより具体化するために、単元の評価規準を学習のねらい、生徒の実態等に合わせて、さらに具体化していく必要があります。このことは評価の信頼性を高めることにもつながります。

その際、次のことに注意しましょう。

評価場面を意識しながら、評価規準をより具体的にしていきたいと思います。

評価に追われることのないよう、学びの姿のポイントを表現しましょう。

どのような状況が「十分満足できると判断される」状況(A)なのかをはっきりさせましょう。

(単元の評価規準例(バレーボール))

関心・意欲・態度 《目標の①より》	思考・判断 《目標の②より》	運動の技能 《目標③より》	知識・理解 《目標の④より》
バレーボールの三段攻撃とレシーブフォーメーションに着目して、作戦を立てて勝敗を競い合う～	チームや自分の能力に応じた適切な課題を設定し、チームや自分の課題を解決するための適切な練習方法などを～	相手のサーブに応じたレシーブフォーメーション、レシーブ、トス、スパイクの三段攻撃を使ってゲームが～	バレーボールの集团的技術の構造、技能を高めるための合理的な練習の仕方、練習計画の立て方、ルール、審判法～



(学習活動における具体の評価規準例(バレーボール) 「おおむね満足できると判断される」状況(B))

関心・意欲・態度 《目標の①より》	思考・判断 《目標の②より》	運動の技能 《目標③より》	知識・理解 《目標の④より》
① バレーボールの三段攻撃とレシーブフォーメーションに着目して、作戦を立てて勝敗を競い合うバレーボールの楽しさや喜びを味わおうとする。 ② 練習やゲームではチームにおける自分の役割を果たし、協力して教え合ったり励まし合ったりしようとする。 ③ ゲームでは審判の指示に従い、ルールを守り、勝敗や結果を受け入れようとする。 ④ 活動場所の安全を確かめ、健康、安全に留意して練習やゲームをしようとする。	① チームや自分の能力に応じた適切な課題を設定している。 ② チームや自分の課題を解決するための適切な練習方法などを選んだり、見付けたりしている。 ③ 技能の段階に応じて相手との攻防にあった作戦を立てている。	① 相手のサーブに応じたレシーブフォーメーションの動きができる。 ② レシーブ、トス、スパイクの三段攻撃の動きができる。	① バレーボールの集团的技術の構造、技能を高めるための合理的な練習の仕方、練習計画の立て方について言ったり、書き出したりしている。 ② ルール、審判法及び競技会の企画や運営の仕方について言ったり、書き出したりしている。

《十分満足できる》状況
 ・ 自ら進んで取り組み～
 ・ 仲間に気を配り～
 ・ 率先して・常に など

《十分満足できる》状況
 ・ 見付けている など

《十分満足できる》状況
 ・ タイミングよくできる
 ・ 的確にできる など

《十分満足できる》状況
 ・ 説明できる など

単元計画に評価をする場面を組み込み、評価計画を作りましょう。

Q 「指導と評価の計画」を作成していくためには？



評価の妥当性を高めるために、「いつ」「何を」「どんな方法」で評価していくのか、指導の流れに合わせて計画を立てることが必要です。

その際、次のことに注意しましょう。

授業のねらいに合わせて評価場面を設定し、指導と評価の視点を絞みましょう。

学習の進行途中で実現状況を確認し指導の見直し、改善に役立てます。

発表会や記録会、アンケート等により目標実現状況を把握しましょう。

(学習活動における具体的評価規準例(バレーボール) 「おおむね満足できると判断される」状況(B))

関心・意欲・態度 《目標の①より》	思考・判断 《目標の②より》	運動の技能 《目標③より》	知識・理解 《目標の④より》
① バレーボールの三段攻撃～ ② 練習やゲームでは、～ ③ ゲームでは、審判の～ ④ 活動場所の安全を～	① チームや自分の能力に～ ② チームや自分の課題を～ ③ 技能の段階に応じて～	① 相手のサーブに応じた～ ② レシーブ、トス～	① バレーボールの～ ② ルール、審判法～

《指導と評価の計画例》

時数	ねらい・学習活動	学習活動における具体的評価規準				評価方法等
		関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解	
1	《オリエンテーション》 ①学習のねらいや道すじ、具体的な進め方を理解する。 ②学習上の約束と用具の準備やマナー・安全への配慮について理解する。 ③学習ノートの使い方と活用方法について理解する。				①	学習カード
2	ねらい1 「チームや自分の課題を見つけながらゲームを楽しむ」 ① 課題発見ゲーム ② ゲームの振り返り(ゲーム記録表・発問カード)	④	①	①		観察 学習カード
3 4 5	ねらい2 「個人的技能と集団的技能を高めながらゲームを楽しむ」 評価活動を位置付けるため、学習内容が分かるように記述しましょう。	②	②	②	②	観察 学習カード
6	ねらい3					
	まとめ					

今回はモデルとして体育は「ねらい・学習活動」、保健では「学習内容と活動」という形で整理をしています。

教え合いの活動、ゲームの学習など
学習内容を明確に！

評価の方法
観察・学習カード・
問いかけなど

○それぞれの具体的評価規準をもとに、生徒の学習行動に合わせて、判断する手がかりを作成していきます。
 ○学習に応じて、評価を精選し、位置付けましょう。
 ○客観性を高めるために、多様な評価方法を活用しましょう。



Q 評価方法にはどのようなものがありますか？



評価の客観性を高めるために、どの観点も複数の評価方法を用いて評価が適正であるか比較することが必要です。その際、次のことに注意しましょう。

自己の学習状況の確認をし、また、次の学習の意欲を持つためにも自己評価を大切にしましょう。

評価をすることが目的ではなく、評価をどのように生かしていくのかを考えましょう。

評価資料を蓄積しておくために、教師用補助簿を観点別に作成しておきましょう。

ア 学習カード・ノート等の記述による評価例

【学習カードの記述をもとに見取る例】

反省課題	私たちのチームはサーブレシーブで失点することが多かったので、サーブレシーブとカバーリングを課題とします。(分析と課題)
	練習方法は3人でサーブレシーブ隊形をつくり、声をかけ合い、自分がレシーブしない時もボールの方向に体を向け、カバーできるようにする練習をします。(課題解決方法)

自分のチームの能力に応じた適切な課題を設定している。
【思考・判断】

チームの課題を解決するための適切な練習方法を工夫している。
【思考・判断】

内容を絞り込む指示、内容の読み取り方、コメントの返し方を事前に明確におきましょう。

ゲーム記録は技能の評価の参考にします

	ゼッケン No.	なまえ	触球数	サポート数	パスを受けた数	シュート数	ゴール数	シュート成功率
1	4	〇〇さん	9	10	8	3	3	100%
2	5	△△さん	20	9	15	9	3	33%
3	6	▽▽さん	12	12	10	12	10	83%

技能の評価は、動きの“質”を見取ることが基本です。客観的データは技能の参考とします。

自己評価結果は、直接評価材料にしません

自己評価は直接的には評価材料にしません。教師の観察等による評価と比較することにより、生徒の自己評価能力等を見取ることができます。

【自己評価】

評価項目	①	②	③
準備や片付けを進んで行おうとした	○	◎	○
審判や記録係等に積極的に取り組もうとした	△	◎	○
練習やゲームに積極的に参加した	○	○	○

ウ 観察による評価例

【観察による評価方法例】

評価項目	関心・意欲・態度	
生徒氏名	A) ~勝敗を競い合う楽しさを積極的に味わおうとする。	A) ~自分の役割を自覚し、自ら進んで協力しようとする。
	C) 味わおうとしない。	C) 協力しようとする。
A	2/15	2/24
C		
A		
C	2/21	
A		
C		

観察する場面を想定し、手軽にできる方法を工夫しましょう。

エ ペーパーテストによる評価例

【場面テストによる評価例】

Aチームの特徴

Aチームはセッターが上手でいろいろな方向にトスを上げることができるが、みんな身長が低いので、アタックが相手のブロックに阻まれてしまう。

【問】 上の特徴からAチームにふさわしい攻撃方法とその練習法を考えなさい。

それぞれの評価資料は、即指導に生かしたり、単元末にまとめて、次の単元に活用したりします。

Q 評価資料はどのようにまとめるのですか？



単元終了時には、教師用補助簿にそれぞれの観点別の評価をまとめ、次の学習の目標や計画の見直しをしましょう。

その際、次のことに注意しましょう。

1 個人カードや一覧表等を工夫し、集計しやすい教師用補助簿を作成しましょう。

2 評価を総括する方法を決めておきましょう。例えば「パターン化」「数量化」等があります。

3 必要に応じて、生徒・保護者に説明し、次の学習の課題を考える手立てを提供しましょう。

パターン化： 観点内にA[○] (A、B、C、C[△]) が○○個以上ある場合は、総合評価をA[○] (A、B、C、C[△]) とする。

数 量 化： A[○]を5点、Aを4点、Bを3点、Cを2点、C[△]を1点とし、○○点(○○%)以上なら総合評価をA[○] (A、B、C、C[△]) とする。

ここでは例として…

「十分満足できると判断される」状況 (A) を = A

「おおむね満足できると判断される」状況 (B) = B

「努力を要すると判断される」状況 (C) = C

(A) (C) について、それぞれ程度の高い (低い) ものを = A[○]、C[△] …とします。

ア 個人評価集計カードを使用した例

2年 組 番 氏 名		評価資料						総合評価	
観点	2年バレーボール おおむね満足できると判断される状況 (B)	観 察	カ ー ド 記 述	ノ ー ト 記 述	ゲ ー ム 記 録	技 術 カ ー ド	記 述 テ ス ト		評 価
関心 意欲 態度	①バレーボールの…楽しさを味わおうとする。	A		A				A	A
	②練習やゲーム…協力しようとする。	A	A [○]					B	A
	③ゲームでは、…受け止めようとしている。	B	A					A	A
	④活動場所の…安全に注意しようとしている。	B	A		B				B
思考 判断	①自分やチームの課題を選んでいる。	A		B	B				B
	②自分やチームの…練習方法を選んでいる。			A [○]	A [○]			A	A [○]
	③相手との攻防にあった作戦を選んでいる。			B	B				B

イ 評価集計一覧表を使用した例

2年バレーボール																総合評価			
生徒氏名	評価資料	関心・意欲・態度								総合評価	知識・理解				総合評価				
		おおむね満足できる		練習やゲーム…楽しさを…		ゲームでは、…受け止め…		活動場所の…安全に…			バレーボールの…		防御の仕方…言ったり、…						
		観 察	ノ ー ト 記 述	観 察	ノ ー ト 記 述	観 察	カ ー ド 記 述	ノ ー ト 記 述	観 察			ノ ー ト 記 述	観 察	記 述 テ ス ト	カ ー ド 記 入	観 察	記 述 テ ス ト		
1	○○さん	A	A	B	A [○]	A	A	B	A			A	B	B	5/10	B	B	6/10	B
2	△△さん	B	B	C	B	B	B	A	B			B		9/10	B	A	8/10	A	

<ポイント>
生徒による自己評価や相互評価は、あくまで参考とし、評価材料にはしません。

評価を学習活動や指導に生かすために、生徒や教師自身にフィードバックしましょう

保健について

Q 保健学習に求められている内容は？

評価の前に、まず指導ありきです。学習指導要領における保健学習のねらいと主な内容を確認しましょう。



保健学習のねらい

ヘルスプロモーション*の考え方を生かし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、生活行動や環境を改善していく資質や能力の基礎を培い、実践力を育成する。

* 人々が自らの健康をコントロールし、改善できるようにするプロセスのこと。健康的な生活を実践する知識を十分与えた上で、さらに環境面からもその実践を容易にするようなサポートを行うという発想。1986年のWHOオタワ会議で提唱。

内容を構成する上でのポイント

- 健康の大切さや体の発育・発達などの基礎的・基本的な事項が理解できるようにする。
- 健康的なライフスタイルを確立する。
- 深刻化する健康・安全に関する新たな課題等に対応する。
- 心の健康の保持増進に関する理解を図る。

学習指導要領改訂のポイント

- 健康を保持増進するためには、単なる知識・理解にとどまらず、個人の適切な「意志決定」「行動選択」が重要であることについて取り扱う。
- 生活習慣病の予防やエイズ及び腸管出血性大腸菌感染症など、感染症の新たな課題についても取り扱うとともに、薬物乱用防止に関する内容を充実させる。
- 心の健康については、自らの可能性を最大限に生かして自分を高めていくことの大切さや欲求、ストレスの対処を重視する。

保健学習の内容と具体的事項

(1) 現代社会と健康	「ア 健康の考え方」、「イ 健康の保持増進と疾病の予防」、「ウ 精神の健康」、「エ 交通安全」、「オ 応急手当」
(2) 生涯を通じる健康	「ア 生涯の各段階における健康」、「イ 保健・医療制度と地域保健・医療機関の活用」
(3) 社会生活と健康	「ア 環境と健康」、「イ 環境と食品の保健」、「ウ 労働と健康」

学習方法の工夫

実習などの多様な方法を活用しましょう。

指導に当たっては、心肺蘇生法、ロールプレイング（役割演技法）などの実習やディスカッション、必要な実験を取り入れる、課題学習を積極的に導入する、地域や学校の実情に応じて養護教諭や栄養教諭、学校栄養職員など専門性を有する教職員等の参加・協力を推進するなどの多様な指導方法の工夫を行うことにより、学習効果を高めましょう。

また、それぞれの学習活動に応じた評価の工夫をしていきましょう。



Q 単元の評価規準の設定の手順は？

☞ 保健の目標を確認しましょう。

☞ 保健の評価の観点及びその趣旨を確認しましょう。

☞ 学習指導要領に示されている内容を確認しましょう。



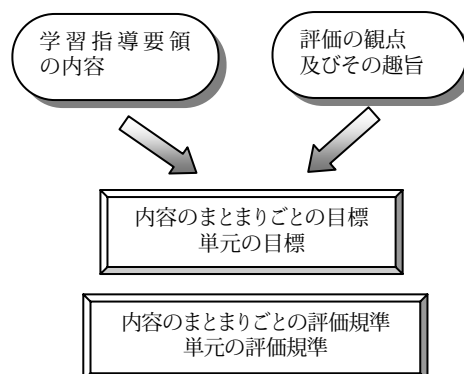
【学習指導要領の内容：(1)現代社会と健康 - ウ 精神の健康の例】

現代社会と健康	我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためには、ヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が適切な生活行動を選択し実践すること及び環境を改善していく努力が重要であることを理解できるようにする。
精神の健康	人間の欲求と適応機制には様々な種類があること及び精神と身体には密接な関連があること。また、精神の健康を保持増進するためには、欲求やストレスに適切に対処するとともに、自己実現を図るよう努力していくことが重要であること。

☞ 内容のまとめりごとの評価規準と単元の評価規準を設定しましょう。

これらの「評価の観点及びその趣旨」と「学習指導要領の内容」を踏まえて内容のまとめりごと及び単元ごとの指導目標を設定します。その際、生徒にどのような資質や能力を身に付けさせようとしているのかを明確にすることが重要です。各学校・学年の教育目標、生徒の実態等を考慮することも必要です。

そして、それらの内容のまとめりごと及び単元の目標について、評価の観点ごとに具体化した評価規準を設定します。



【内容のまとめりごとの評価規準と単元の評価規準】

	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
内容のまとめりごとの評価規準	健康の保持増進に必要な事柄について、仲間と協力して資料を集めたり、意見を交換したり、課題について調べたりして、意欲的に学習しようとしている。	健康の保持増進に必要な事柄について、自分のこれまでの学習や経験をもとにしたり、資料や仲間の意見や考えなどを参考にしたりして、課題の設定や解決の方法を考え、選択すべき行動を判断している。	健康の保持増進に必要な事柄について健康を保持増進するためには、適切な生活行動を選択すること及び環境を改善していく努力が必要であることを理解し、課題解決に役立つ知識を身に付けている。
単元の評価規準	「精神の健康」 ○人間の欲求と適応機制には様々な種類があること、精神と身体には密接な関連があること、精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処や自己実現への努力が必要であることについて、自分の経験や仲間との意見交換、資料などをもとに、課題について調べ、記録したり、発表したりしようとしている。	「精神の健康」 ○人間の欲求と適応機制には様々な種類があること、精神と身体には密接な関連があること、精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処や自己実現への努力が必要であることについて、資料や仲間の意見をもとに、課題を見付けたり、解決方法をまとめたり、日常生活に当てはめたりして、選択すべき行動を判断している。	「精神の健康」 ○人間の欲求と適応機制には様々な種類があること、精神と身体には密接な関連があること、精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処や自己実現への努力が必要であることについて、具体例を挙げたり、言ったり、書き出したりしている。

(参考資料：国立教育政策研究所 評価規準、評価方法の工夫改善のための参考資料)

Q 具体の評価規準の設定のポイントは？

目標の実現状況を判断するために観点別評価規準の具体例を設定します。
設定するときは、次の2つの点に留意しましょう。

- できるだけ行動目標的な表現
- 生徒の学習活動がイメージできる表現

「関心・意欲・態度」や「思考・判断」については、その場면을教師自らが学習活動の中に仕組み、そこで現れる具体の姿を評価するようにしましょう。



【具体例】

「おおむね満足できる状況」の生徒の学習の姿を、行動目標的（目標とする行動・活動等の姿を具体的に）に示します。

- 「意見を発表しようとしている」
- 「適切な対処の必要性について、言ったり書き出したりしている」など

Q 各観点の具体の評価規準の表現のポイントは？

関心・意欲・態度

多面的に評価できるようにすることが大切です。

《見える姿 …………… 観察等》

- 「聞こうとしている」、「発言・発表しようとしている」、「調べようとしている」等の具体的な姿を表現します。

《内面に関すること …………… ワークシート等の活用》

- 内面にかかわる見えないものを評価する規準は、ワークシート等を活用するとともに、できるだけ生徒の姿を思い浮かべて表現します。

指導法などもイメージできる表現にしましょう。

思考・判断

適切な意志決定・行動選択ができるような思考・判断は、「課題を見付けている」、「予測・予想している」、「分析している」、「選んでいる」等の視点を重視し、生徒の姿（行動や活動）に置き換えます。

課題を解決している状況、その思考経過をワークシート等で見ることもできます。

知識・理解

学習の内容について（その事柄の意義や事柄同士の関係や構造など）を「言ったり、書き出したりしている」「具体例を挙げている」「説明している」などの表現をします。

例えば

- 具体的な事例に即して、傷害の要因が挙げられる。
- 健康によい生活の仕方が説明できる。
- 喫煙、飲酒、薬物乱用の健康の影響や心理社会的な要因などが挙げられる。
- 心の健康に必要なものが挙げられる。
- 病気の原因と予防の仕方を関連させて説明できる。

用語の丸暗記だけでなく…

Q 具体の評価規準と学習場面における具体の学びの姿(5段階)を作成するには？

内容のまとめりごと及び単元の評価規準を作成したら、さらに学習活動における具体の評価規準と学習場面における具体の学びの姿を作成し、実現状況をより具体的に捉えられるようにします。

まず、学習指導要領の目標と内容に則して、各観点ごとにどのようなことをどの程度達成すれば、「おおむね満足と判断できる」状況(B)とするのかを設定します。

そして、それぞれの項目に応じて「十分満足できると判断される」状況(A)、「努力を要すると判断される」状況(C)、そして(A)のうち特に程度が高いもの(A[○])、(C)のうち特に程度が低いもの(C[△])を設定します。

例:(1)「現代社会と健康」、ウ「精神の健康」

	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
A [○]	① ~ 仲間に働きかけながら意見交換しようとしている。 ② ~ 常に自ら進んで記録しようとしている。 ③ ~ 自ら進んで取り組み、身に付けようとしている。	① ~ いつでも情報を引き出せるように見出しをつけたり、項目ごとにしりして整理している。 ② ~ 実践につながる方法で、日常生活に当てはめている。 ③ ~ 保持増進の実践につながる適切な行動を選んでいる。	①②③④ ~ 具体例を背景に入れたり、分かりやすく置き換えたりして説明している。
A	① ~ 進んで意見交換しようとしている。 ② ~ 進んで記録しようとしている。 ③ ~ 自ら進んで取り組みもうとしている。	① ~ 分かりやすくまとめている。 ② ~ 実践を意識して日常生活に当てはめている。 ③ ~ 自分の状況に応じた適切な行動を選んでいる。	①②③④ ~ 具体例をあげて説明している。
B	①人間の欲求には様々な種類があること、精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処が必要であることについて、 意見交換をしようとしている。 ②適応機制には様々な種類があること、精神と身体には密接な関連があることについて、教科書や与えられた資料をもとに、調べた内容を 記録しようとしている。 ③精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処や自己実現への努力が必要であることについて、関連する実習に 取り組もうとしている。	①適応機制には様々な種類があること、精神と身体には密接な関連があることについて、 精神の健康の保持増進について、与えられた課題をまとめている。 ②人間の欲求には様々な種類があること、精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処が必要であることについて、 日常生活に当てはめている。 ③精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処や自己実現への努力が必要であることについて、 適切な行動を選んでいる。	①適応機制には様々な種類があることについて、 言ったり、書き出したりしている。 ②精神と身体には密接な関連があることについて、 言ったり、書き出したりしている。 ③精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処が必要であることについて、 言ったり、書き出したりしている。 ④精神の健康を保持増進するには自己実現への努力が必要であることについて、 言ったり、書き出したりしている。
C	① ~ 断片的な意見交換に留まっている。 ② ~ 部分的な記録に留まっている。 ③ ~ 部分的に取り組んでいる。	① ~ 部分的なまとめに留まっている。あるいは外的なまとめになっている。 ② ~ 部分的に日常生活に当てはめているが、外的なものとなっている。 ③ ~ 適切でない行動を選んでしまうことがある。	①②③④ ~ 断片的に言ったり書き出したりしている状況に留まっている。
C [△]	① ~ 意見交換をしようとしていない。 ② ~ 記録しようとしていない。 ③ ~ 取り組もうとしていない。	① ~ まとめられずにいる。 ② ~ 手立てを講じても、日常生活に当てはめられずにいる。 ③ ~ 適切な行動を選ばずにいる。	①②③④ ~ 全く言えなかったり、書き出したりできないでいる。

Q 努力を要すると判断される生徒への指導の手だては？

努力を要すると判断される生徒には、その生徒の状況に即して、より具体的な資料を提示したり、学習の進め方について助言したり、生徒と共に具体的な生活場面を想起したりして、「おおむね満足できる状況」になるように支援します。

【具体例】各観点における「努力を要する状況」とそれに対する「手だて」

個に応じた指導と支援を充実させましょう。

《関心・意欲・態度》**生徒の状況** 課題に対する意識が高まらず、自分で課題を見付けようとしなない。

☞ 自分の生活を振り返らせる。課題となる場面を提示する。考えるヒントを与える。

《思考・判断》**生徒の状況** 問題点が見付けられず、予想したり、分析したりできない。

☞ 別の具体的な資料を提示する。仲間の意見を参考にさせる。

《知識・理解》**生徒の状況** 学習したことの用語を挙げられる程度に留まっている。

☞ 各班の発表資料の見直し・確認をすることによって再度整理させ、生徒の理解の程度に応じて補足説明をする。



○ 評価の実施者、方法等は？

- 「いつ」、「だれが」、「どのような方法で」評価するかを決定し、学習指導計画に位置付けます。
- 評価の結果が次の学習に生かされるようにしましょう。
- ワークシートなどの記述から見取れるようにしましょう。



【指導と評価の計画】

例：(1)「現代社会と健康」、ウ「精神の健康」

今回はモデルとして保健では「学習内容と活動」、体育は「ねらい・学習活動」という形で整理をしています。

時	学習内容と活動	学習活動における具体的評価規準
1	<p>「欲求と適応機制」</p> <p>【学習内容】 行動の根源が欲求にあることに気付き、精神機能が主として脳によって統一的・調和的に営まれていることや人間には様々な欲求があること</p> <p>【学習活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 人間の行動と欲求について意見交換をする。 ② 人間の欲求と脳の働きについて知る。 ③ 現在の自分が「～したい」という事柄を挙げ、発表し合う。 ④ 自分と仲間の欲求を整理し、分類する。 ⑤ 発表し合い、学習のまとめをする。 	<p>【 】・・・評価の観点 《 》・・・評価の方法</p> <p>【関心・意欲・態度】 《観察》</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 人間の欲求には様々な種類があること、精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処が必要であることについて、意見交換をしようとしている。(毎時)
2	<p>【学習内容】 欲求不満から生じる不安や悩みがあるときに現われる適応機制には、様々な種類があることを理解し、日常生活では様々な適応機制を用いていること</p> <p>【学習活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 欲求不満から生じる不安や悩みがあるときに現われる適応機制について話し合う。 ② 教科書や資料をもとに、適応機制の種類とその内容について調べる。 ③ 自分の行動傾向について、分類された適応機制に当てはめて分析し、自分の行動の問題点を考える。 ④ グループで話し合い、学習のまとめをする。 	<p>【知識・理解】 《ワークシート・テスト》</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 適応機制には様々な種類があることについて、言ったり、書き出したりしている。(2時) <p>【思考・判断】 《ワークシート・テスト》</p> <ol style="list-style-type: none"> ② 人間の欲求には様々な種類があること、精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処が必要であることについて、日常生活に当てはめている。(2時)
3	<p>「心身相関とストレス」</p> <p>【学習内容】 具体的な事例から、人間の精神(心)と身体(体)は密接な関連を持ち、身体的ストレスが精神の健康に影響し、精神的ストレスが身体(体)の健康に影響すること</p> <p>【学習活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 日常生活の中での心と体のかかわりについて話し合い、本時の学習課題を見付ける。 ② 極端な寒暖や腹痛などの例をヒントに、精神的ストレスの体への影響について調べる ③ 「断腸の思い」の資料をヒントに、精神的ストレスの体への影響について調べる。 ④ 発表し合い、学習のまとめをする。 	<p>【思考・判断】 《ワークシート・テスト》</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 適応機制には様々な種類があること、精神と身体には密接な関連があることについて、精神の健康の保持増進について、与えられた課題をまとめている。(3時) <p>【知識・理解】 《ワークシート・テスト》</p> <ol style="list-style-type: none"> ② 精神と身体には密接な関連があることについて言ったり、書き出したりしている。(3時)
		<p>【思考・判断】 【知識・理解】 《定期テスト》</p> <p>単元終了後に実施する定期テストにおいて、評価規準に照らした内容を問う問題を作成し実施する。</p>

A〇～C△の状況を示すキーワードやキーセンテンスを予め決めておくと、評価のずれ幅が少なくなるとともに、より効率的になると考えられます。

【**関心・意欲・態度**】
《観察》
教科書による一斉講義型の授業だけでは、なかなか見取れません。生徒が実際に活動する、いわゆる「参加型」の授業を取り入れましょう。

【**思考・判断**】
《ワークシート》
ワークシート等には、生徒の思考を促すよう、発問形式にするなどの工夫をしましょう。

【**知識・理解**】
《ワークシート》
学習活動中に使用したワークシートの記述内容を読み取り、各評価規準に照らして評価します。

Q 評価の記録はどうするのですか？

- 観察の結果やワークシートの記述などを評価補助簿等に記録し、評価しましょう。
- 評価の結果を次の学習に生かすために、学習の経過や結果が分かる記録の蓄積を重視しましょう。



【ワークシートの具体例】 現代社会と健康「健康の考え方」

(参考資料：「意志決定・行動選択の力を育てる高等学校保健学習のプラン」平成13年 日本学校保健会)

保健学習プリントー1 年 組 番 氏名 _____

(1) あなたがイメージする「健康」をイラストに書いてみよう。

生徒の思考・判断を促すような工夫をすることで、結果的に、「思考・判断」の観点が見とれるワークシートになります。

(2) 次の図を見て、A君が坂道で「健康」を高めていくにはどのような方法が考えられますか？

① _____
 ② _____
 ③ _____

(3) 今日の授業を振り返っての感想、また日頃の自分の生活を振り返り改善点などを「～する」「～したい」といった文で記入してみましょう。

【補助簿の具体例】

A[○]:特に程度の高い… A:十分満足 B:おおむね満足 C:努力を要する C[△]:特に程度の低い…



生徒	評価の観点	第1・2			第3・4			第5・6			単元ごとの 観点評価
		①	②	③	①	②	③	①	②	③	
1	ア 関・意・態				A [○]	B				A	A
	イ 思・判		B						B	B	B
	ウ 知・理			B		B			B		B
2	ア 関・意・態				B	B				B	B
	イ 思・判		C						B	B	B
	ウ 知・理			C		C [△]			B		B

チェック

自己評価

◎…はい、 ○…どちらでもない、 △…いいえ

関心・意欲・態度

関心・意欲・態度

知識・理解

思考・判断

項目	時間	1	2	3	4	5	6
①今日の学習は楽しかったですか。							
②自分から進んで学習できましたか。							
③「あっ、わかった」「あっ、そうか」と思ったことがありましたか。							
④自分の意見を持つことができましたか。							

あくまで
参考!

学習を振り返って一言

自己評価結果は参考とし、
直接評価材料とはしません

1

2

実践編

体育

体づくり運動「体力を高める運動」・・・P 3 7 ～P 4 5

球 技「バドミントン」・・・・・・P 4 6 ～P 5 5

保健

社会生活と健康「環境と食品の保健」・・・・・・P 5 6 ～P 6 3

体育

体づくり運動 「体力を高める運動」

※「体づくり運動」の内容には「体ほぐしの運動」と「体力を高める運動」がありますがここでは「体力を高める運動」の単独単元としての例を紹介しします。



1 単元名 3年 体づくり運動(体力を高める運動)

2 単元目標


- 体力を高める運動の必要性を意識し、仲間と協力して運動に取り組もうとする。また、自分の体の調子や場所や用具の安全を確かめ、健康・安全に留意しようとする。(関心・意欲・態度)
- 自分の体力や健康状態をもとに課題を設定し、生活の実状に応じて、運動の種類や時間、回数等を組み合わせることができるようにする。また、運動の内容やその効果を考え、運動の内容や方法を見直すことができるようにする。(思考・判断)
- 持久力、柔軟性、力強さやスピードを高める運動を行うことができるようにする。(運動の技能)
- 体力を高める運動の目的には、疲労回復、体調維持、競技力向上等の目的があることについて言ったり書き出したりできるようにする。また、運動の目的に合った運動の組み立て方、活用の仕方について、言ったり書き出したりできるようにする。(知識・理解)

各校種、各学年での学習内容の整理をすることで系統的な学習計画が作成できます。

3 中学校から高等学校の「体づくり運動(体力を高める運動)」の学習内容の整理(例)

内容	中学校			高等学校		
	1年	2年	3年	1年	2年	3年
大きな力を発揮する能力を高めるための運動及びパワフルな動きができる能力を高めるための運動	自重を腕で支えたり、持ち上げたり、引き上げたり、人や物を押し引き上げたりする運動	自重や相手の体重などを使って腕で支えたり、持ち上げたり、引き上げたり、押し引き上げたりする運動	計画的に、継続的に回数・重さ・距離・負荷のかけ方を漸増して行い、自重や相手の体重、物などを使って行う運動	大筋群、小筋群を強化する運動の正しいフォームと行い方と選択の仕方	目的に応じて、強度・時間の原則を踏まえ、運動の行い方と組み合わせ方	自己の体力や生活の実状に応じて、強度・時間の原則を踏まえた運動
巧みさを高めるための運動(中学・高校) スピーディーな動きができる能力を高めるための運動(高校)	徒手でリズムカルに動いたり、素早く動いたりする運動	徒手又は手具を使ってリズムカルに動いたり、人やモノの動きに対応してタイミングよく動いたりする運動	徒手又は手具を使って緊張、解緊、アクセントの付け方などを工夫して、リズムカルに行ったり、人や物の動きに対応してタイミングよく動いたり、素早く動いたりする運動	巧さ、スピーディーに動く能力を高める運動のバリエーション	目的に応じて、巧さ、スピーディーな動きができる能力を高める運動の選択・組み合わせ方	自己の体力や生活の実状に応じて、巧さ、スピーディーな動きができる能力を高めるための運動における負荷の強度や量などの工夫の仕方
動きを持続する能力を高めるための運動	一つの運動又は複数の運動を組み合わせ、一定時間連続して行ったり、一定の回数を反復して行ったりする運動	各種の運動を連続的に行ったり、一定時間反復して行ったりし、最大心拍数と主観的運動強度の関係を着目して「ややきつい」と自覚できる運動強度で行う運動	最大心拍数と主観的運動強度を活用して行う運動	目的に応じて動きを持続する能力を高めるための運動 目的に応じて動きを持続する能力を高めるための運動の、選択の仕方	目的に応じた、動きを持続する能力を高めるための運動を組み合わせる運動 動きを持続する能力を高めるための運動における負荷の強度や量など、運動の行い方の、工夫の仕方	自己の生活や体力の実状に応じて、強度・時間を設定して行う運動
体の柔らかさを高めるための運動	ストレッチング(静的)の行い方	動きの中で高められる柔軟運動(動的)の行い方	目的に合った、動きの中で高められる柔軟運動(動的)とストレッチング(静的)の行い方	関節構造や筋、腱を意識して行う、柔軟運動(動的)とストレッチング(静的)の行い方	目的に応じた柔軟運動(動的)とストレッチング(静的)を組み立てて行う運動の行い方	自己の生活や体力にに応じて行う柔軟運動(動的)とストレッチング(静的)の行い方
総合的な体力を高めるための運動	数種類の異なる動きを1セットにして、時間や回数を設定して行う運動	数種類の異なる動きを1セットにして、時間や回数を漸進しながら連続して行う運動	目的に合った固定施設や器械・器具などを使って、時間や回数を漸進しながら順番に連続して行う運動	負荷の強度や量、運動の構成して行う運動	目的に応じて、負荷の強度や量、運動の構成して行う運動	自己の生活や体力の状況に応じて、負荷の強度や量、運動の構成して行う運動

4 学習の道すじ(10時間扱い)

時	1	2～6	7～9	10
学習のねらい	<オリエンテーション> 今の自分の健康・体力状況に気付くとともに体力を高める運動の必要性を理解する。	【ねらい1】 体力を高めるための運動の行い方を知り、自分の課題を設定し実践する。	【ねらい2】 自分の課題に応じた体力を高めるための運動を計画し、実践する。	<まとめ> 体力を高める運動の成果を確認するとともに、学習のまとめをする。
0	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習内容の確認 ○ 本時の目標確認 			
10	①ウォーミングアップの方法の理解と実践 ②正確なストレッチの方法の理解と実践	<ストレッチ> ①ストレッチの基本的な考え方や効果的な行い方 ②自分の体力に応じたメニューを選択・実践	①体力を高めるための運動の計画立案 ②体力を高めるための運動の実施 ③体力を高めるための運動の振り返りと計画修正 ④修正した計画を基に体力を高めるための運動の実施	力試し (ミニ体力テスト) ・反復横跳び ・握力 ・長座体前屈等
20		<力強さ・スピード> ①基本的な考え方や効果的な行い方 ②自分の体力に応じたメニューを選択・実践		
30		<持久力> ①心拍数と主観的運動強度についての理解 ②自分の体力に応じたペースでのランニング	 <p>単元計画は、大まかな学習内容が時系列でわかるように計画しましょう！</p>	学習全体の振り返り (ノート記入)
40				
50	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の振り返り(ノート記入) ○ 次回の確認・目標設定 			

5 評価規準

(1) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
体力を高める運動の必要性を意識し、仲間と協力して運動に取り組もうとする。また、自分の体の調子や場所や用具の安全を確かめ、健康・安全に留意しようとする。	自分の体力のレベルや健康状態をもとに課題を設定し、自分の生活の実状に応じて、運動の種類や時間、回数等を組み合わせている。また、運動の内容やその効果を考え、運動の内容や方法を見直している。	持久力、柔軟性、力強さやスピードを高める運動を行うことができる。	体力を高める運動の目的には、疲労回復、体調維持、競技力向上等の目的があることについて言ったり書き出したりしている。また、運動の目的に合った運動の組み立て方、活用の仕方について、言ったり書き出したりしている。

単元の目標から4つの観点ごとに単元の評価規準を設定します。留意点として、該当学年の学習内容にあった「おおむね満足できる状況」を設定しましょう！



陸上競技の「長距離走の観点」と混同しないように注意しましょう。

(2) 学習活動における具体的評価規準と学習場面における具体的学びの姿 (5段階)

	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
A [○]	① ~ を常に意識して粘り強く取り組もうとする。 ② ~ 励ましながら自ら進んで協力し… ③ ~ 常に自ら進んで確かめ…	① ~ をとらえ、適切な課題を設定している。 ② ~ 効率性を考えて的確に構成している。 ③ ~ 的確にとらえ、～見直し、新たに方法を工夫したりしている。	① ~ 安定して効果的に高めるペースで走ることができる。 ②③ ~ 安定して効果的に行うことができる。	①② ~ 説明している。
A	① ~ を常に意識して取り組もうとする。 ② ~ 自ら進んで協力して… ③ ~ 自ら進んで確かめ…	① ~ に応じた課題を設定している。 ② ~ 効率性を考えて構成している。 ③ ~ とらえ、～見直し、改善している。	① ~ 効果的に高めるペースで走ることができる。 ②③ ~ 効果的に行うことができる。	①② ~ 具体例を挙げている。
B	①体力を高める運動の必要性を意識して、取り組もうとする。 ②仲間と協力して運動に取り組もうとする。 ③自分の体の調子や場所や用具の安全を確かめ、健康・安全に留意しようとする。	①自分の体力のレベルや健康状態をもとに課題を設定している。 ②自分の体力のレベルや健康状態をもとに、生活の実状に応じて運動の種類や時間、回数等を組み合わせている。 ③運動の効果を考え、運動の内容や方法を見直している。	①持久力を高めるペースで走ることができる。 ②柔軟性を高める運動を行うことができる。 ③力強さやスピードを高める運動を行うことができる。	①体力を高める運動の目的には、疲労回復、体調維持、競技力向上等の目的があることについて、言ったり書き出したりしている。 ②運動の目的に合った運動の組み立て方、活用の仕方について、言ったり書き出したりしている。
C	① ~ を意識して取り組めずにいる。 ② ~ 協力できずに… ③ ~ 確かめられず ~ 留意できずにいる。	① ~ を考えずに課題を設定している。 ② ~ 部分的な組み合わせに留まっている。 ③ ~ 考えられずに、～	① ~ 高めるペースを保てないでいる。 ②③ ~ 高める運動が不安定で、効果が薄い行い方になっている。	①② ~ 断片的に言ったり書き出したりしている状態に留まっている。
C [△]	① ~ の意識を持とうとしないでいる。 ② ~ 関わろうとせず… ③ ~ 確かめず、危険な行い方をしてしまうこともある。	① ~ を考えず、課題を設定できずにいる。 ② ~ 組み合わせることができない。 ③ ~ 考えられず、～見直せないでいる。	① ~ 高めるペースで走ることができずにいる。 ②③ ~ 高める運動を行うことができずにいる。	①② ~ 全く言ったり書き出したりできずにいる。



★具体的評価規準を作成する際の留意点として…

- 4観点が混在することのないよう、観点間の表現の重複や紛らわしい表現に気を付けましょう。
- 具体的評価規準は、内容のまとまりごとの評価規準や、単元の評価規準で用いた表現よりも具体的にします。

6 指導と評価の計画

時間	ねらいと学習活動	学習活動における具体的評価規準				評価方法等
		関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解	
はじめ 1時間目	<p><オリエンテーション> オリエンテーションのねらい： 今の自分の健康・体力状況に気付くとともに「体力を高める運動」の必要性を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ウォーミングアップの方法を理解し、実践する。 正確なストレッチの方法を理解し、実践する。 				①	観察 学習カードの記述
なか① 2時間目～5時間目	<p>ねらい1： 柔軟性・筋力・持久力を高める運動の行い方を知り、自己の課題を設定し実践する。</p> <p>【学習活動】 <ストレッチメニュー> 1 ストレッチの基本的な考え方や効果的に行う。 2 自己の体力に応じたメニューを選択・実践する。 <力強さ・スピードメニュー> 1 力強さとスピードを高めるためのトレーニングを行う。 (基本的な考え方や効果的な行い方) 2 自己の体力に応じたメニューを選択・実践する。 <持久力メニュー> 1 心拍数と主観的運動強度について理解する。 2 自己の体力に応じたペースでのランニングを行う。</p>	①	①	①②③	②	観察 学習カードの記述
なか② 6時間目～9時間目	<p>ねらい2： 自己の課題に応じた「体力を高める運動」を計画し、実践する。</p> <p>【学習活動】 1 課題に応じた運動の計画を立てる。 2 計画を基に運動を実践する。 3 実践の振り返りと計画の修正をする。 4 修正した計画をもとにした運動を実践する。</p>	②③	②③		③	観察 学習カードの記述
まとめ 10時間目	<p>【学習のまとめ】 1 学習をとおして伸びた力を確認する。 →力試し(ミニ体力テスト) 2 単元全体をとおした学習の振り返りを行う。</p>	①			①	観察 学習カードの記述

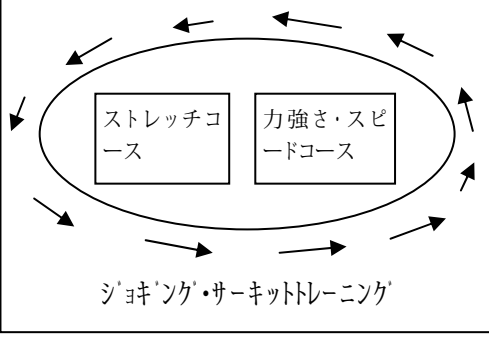
ここでは、学習のはじめの段階なので、学習終了後の知識理解だけでなく全ての観点において学習中に診断的に判断しています。

「①」など番号は、前記の「学習活動における具体的評価規準」の表の番号に対応しています。



7 展開例

時	ねらい・学習活動	教師の指導・支援	評 価
は じ め 1 時 間 (1 時)	<p><オリエンテーション></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方について理解する。 ○学習グループを編成する。 ○今の自分の健康・体力状況に気付くとともに体力を高める運動の必要性を理解する。 ○体力を高めるための運動について、実践をとおして理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1 ウォーミングアップの方法 2 正確なストレッチの方法 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の進め方や資料の使い方、記録の取り方、活用の仕方について説明する。 ○トレーニングの方法や行う際のポイントについて具体的に説明する。 	<p>知識・理解</p> <p>①体力を高める運動の目的には、疲労回復、体調維持、競技力向上等の目的があることについて、言ったり書き出したりしている。(学習カード)</p>
な か ① 4 時 間 (2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 時)	<p>【ねらい1】</p> <p>体力を高めるための運動の行い方を知り、自分の課題を設定し実践する。</p> <p><ストレッチメニュー></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ストレッチの基本的な考え方や効果的な行い方を知る。 2 自分の体力に応じたストレッチメニューを選択し実践する。 <p><力強さ・スピードメニュー></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 力強さとスピードを高めるためのトレーニングの基本的な考え方や効果的な行い方を知る。 2 自分の体力に応じた力強さとスピードを高めるためのトレーニングメニューを選択し実践する。 <p><持久力メニュー></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 心拍数と主観的運動強度を計測し、運動強度について理解を深める。 2 自分の体力に応じたペースで走る。 (1)ペース走(2～3周) (2)目標設定(3周) (3)時間走(タイムトライアル) <p style="text-align: center;">※それぞれのメニューを組み合わせながら実践する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○新体力テストの結果やこれまでの各自の運動実践の様子から、自分の体力に応じた課題が設定できるように助言する。 ○ストレッチの方法や行う際のポイントについて再確認する。 ○正確に行えるように個に応じて助言する。 ○力強さとスピードを高めるためのトレーニングの方法や行う際のポイントについて具体的に説明する。 ○自分の体力にあった運動を行っているか、また正確に行っているか等を観察し、必要に応じて助言する。 ○運動中に主観的な運動強度を意識できるよう言葉かけをする。 ○自分の体力にあった一定のペースで走るよう助言する。 	<p>関心・意欲・態度</p> <p>①体力を高める運動の必要性を意識して、取り組もうとする。(観察・学習ノート)</p> <p>思考・判断</p> <p>①自分の体力のレベルや健康状態をもとに課題を設定している。(観察・学習ノート)</p> <p>運動の技能</p> <p>①持久力を高めるペースで走ることができる。(観察・学習カード)</p> <p>②柔軟性を高める運動を行うことができる。(観察・学習カード)</p> <p>③力強さとスピードを高める運動を行うことができる。(観察・学習カード)</p> <p>知識・理解</p> <p>②運動の目的に合った運動の組み立て方、活用の仕方について、言ったり書き出したりしている。(学習カード)</p>

<p>なか② 4時間 (6・7・8・9時)</p>	<p>【ねらい2】 自分の課題に応じた体力を高めるための運動を計画し、実践する。</p> <p>1 自分の体力の状況をもとに体力を高めるための運動を計画する。</p> <p>〔運動実践の計画例〕</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>①軽い運動 ②筋力を高める運動 ③柔軟性を高める運動 ④スピーディーでパワフルな全身運動 ⑤軽い運動とストレッチ</p> </div> <p>2 計画を基に運動を実践する。</p> <p>3 実践を振り返り、計画に修正を加える。</p> <p>4 修正した計画をもとに運動を実践する。</p> <p>〔展開場所の例〕</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;">  </div>	<p>○自分の体力に応じた課題をもとに、運動の計画が立てられているか観察し、必要に応じて助言する。</p> <p>○生活の実状に応じて、実践的な内容を考えられるよう助言する。</p> <p>○計画がなかなか立てられない場合は、具体的な計画例を提示したり課題に応じた運動を選択できるように助言したりする。</p> <p>○計画をもとにして場所や用具等を効率よく使い、運動量が十分に確保できるように助言する。</p> <p>○計画にもとづいて実践した結果を振り返り、よかった点とよくなかった点をもとに計画を修正するよう指導する。</p> <p>○的確な振り返りや計画の修正ができない場合は、その状況に応じて一斉指導や個別指導を行う。</p>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>②仲間と協力して、運動に取り組もうとする。(観察)</p> <p>③自分の体の調子や場所や用具の安全を確かめ、健康・安全に留意しようとする。(観察・学習カード)</p> <p>思考・判断</p> <p>②自分の体力レベルや健康状態をもとに、生活の実状に応じて運動の種類や時間、回数を組み合わせている。(観察・学習カード)</p> <p>③運動の効果を考え、運動の内容や方法を見直している。(観察・学習カード)</p> <p>知識・理解</p> <p>②運動の目的に合った運動の組み立て方、活用の仕方について、言ったり書き出したりしている。</p>
<p>まとめ 1時間 (10時)</p>	<p>【学習のまとめ】</p> <p>1 学習をとおして伸びた力を確かめる。 ミニ体力テスト</p> <p>2 単元全体をとおして学習を振り返る。 ○学習カードの評価項目をもとに、自己評価を行う。</p>	<p>○意欲的に取り組めるように声をかける。また、記録の伸びだけでなく、運動の行い方の変容も認め賞賛する。</p> <p>○学習全体を4観点から振り返らせ、成果と課題を明らかにし、次の学習に生かすように助言する。</p> <p>○自分の健康について考え、運動を継続して実践していくことの大切さを伝える。</p>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>①体力を高める運動の必要性を意識して、取り組もうとする。(観察・学習ノート)</p> <p>知識・理解</p> <p>①体力を高める運動の目的には、疲労回復、体調維持、競技力向上等の目的があることについて、言ったり書き出したりしている。(学習ノート)</p>

8 学習資料

(1) 事前アンケート

次の設問について、適する答えを□から選び、A—B—Cのいずれかに○をしてください。

また〔 〕にはあなたの考えを書いてください。

生徒の自己評価(意識)を把握します。

Aいつも進んでいる Bだいたいしている Cほとんどしていない

Q1 普段運動するときに、体力を高める必要性を意識して取り組んでいますか？ A — B — C

SQ— あなたが感じる体力を高める必要性とはどのようなことですか？

〔 〕

Q2 仲間と協力したり、励まし合ったりしながら運動に取り組もうとしていますか？ A — B — C

Q3 普段運動するときに自分の体の調子を確認、健康に留意していますか？ A — B — C

Q4 普段運動するときに場所や用具の安全を確認、安全に留意していますか？ A — B — C

Q5 普段運動するときに自分の体力のレベルや健康状態をもとに課題を設定していますか？ A — B — C

SQ— 今現在のあなたの課題は何ですか？

〔 〕

Q6 みんなで運動するときに、効果があがるように運動を組み合わせたり、施設や用具を利用したりしようとしていますか？ A — B — C

SQ— 具体的にどんなことに気を付ければ効果があがると思いますか？

〔 〕

Q7 体力を高める運動をするときに運動の内容やその効果を考えて、運動の内容や方法を見直したり、新たな運動の内容を選んだりしていますか。 A — B — C

A効果的にできる Bだいたいできる Cほとんどできない

Q8 持久力を高めるペースで走ることができますか？ A — B — C

Q9 柔軟性を高める運動を行うことができますか？ A — B — C

Q10 力強さやスピードを高める運動を行うことができますか？ A — B — C



Aとてもよく知っている(理解している) Bある程度知っている(理解している) Cほとんど知らない(理解していない)

Q11 体力を高める運動の大切さを理解していますか？ A — B — C

SQ— 体力を高めるための運動の大切さとは何か、知っていることを書いてください。

〔 〕

Q12 体力を高めるための運動の方法や体力の高めるためのポイントを知っていますか？ A — B — C

SQ— 高めるためのポイントを書いてください。

具体的に書かせることで、現在の生徒の力を把握します。

Q13 高めたい体力に合った運動の組み立て方、活用の仕方を知っていますか？ A — B — C

SQ— 次の目的に合った運動メニューを例示してください。

①健康の保持増進・体力維持を目的とした運動

〔 〕

②(※)の競技力向上トレーニング ※ ()に好きなスポーツを入れてください。

〔 〕

設問は全て評価規準に対応しています。

(2) 評価補助簿

観 点		関心・意欲・態度			思考・判断			運動の技能			知識・理解		
規 準 No		①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③
No	氏 名	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

「十分満足できると判断される」状況 (A) を = A
 「おおむね満足できると判断される」状況 (B) = B
 「努力を要すると判断される」状況 (C) = C
 (A) (C) について、それぞれ程度の高い(低い)ものを = A[○]、C[□]
 ……を記入しています。

(3) 学習カード

班

サーキットトレーニング実施計画

計画日： / ()

実施日： / ()

★セットの内容

No.	運動の種類	使用用具	運動負荷・回数	主な運動効果	留意点
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					

セットの回数

セット

セットレスト

秒



- 1 とても効果的に運動ができた
- 2 ある程度効果的に運動ができた
- 3 あまり効果的にできなかった
- 4 まったく効果的にできなかった

★終了後の記録 (自己評価欄には○をつけましょう)

NO.	なまえ	主観的運動強度	心拍数	自己評価
1			拍/分	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4
2			拍/分	
3			拍/分	
4			拍/分	
5			拍/分	

<グループでの振り返り>

うまくいった点

今後の課題

毎時の学習記録カード

時間目		月	日	(曜日)	天気		
体調	疲労	①	②	③	④	⑤	
	病気						
	怪我						
学習内容		①…絶好調!! ②…好調! ③…普通 ④…不調 ⑤…絶不調					④⑤の理由(自覚症状)
今日の目標							
学習計画		自分で計画を立てるのは○時間目です。前回の課題をもとに体力向上を目指して計画を立てましょう。					
時間							
0分	集合・本時の確認						
	トレーニング内容			注意点・具体的な目標など			
10分							
20分							
30分							
40分	ノート記入						
50分	解散						
自己評価		よい	ふつう	わるい			
1	積極的に活動に参加することができましたか。	3	2	1			
2	トレーニング計画をしっかりと考えましたか。	3	2	1			
3	計画どおりに学習できましたか。	3	2	1			
実際行ってみての計画の上良かった点は？		実際行ってみての計画の問題点は？					
今日の振り返り		次回の目標					
		先生から					

【思】
自分の健康状態をもとに課題を設定しているかどうか、この記述を参考にします。

【知】
目的に合った運動の組み立て方、活用の仕方について記述することができたか、この記述を参考にします。

【思】
運動の効果を考え運動の内容や方法を見直しているかどうか、この記述を参考にします。

主観的運動強度と心拍数の記録カード

【技】 各自の運動に適した心拍数で運動できたかをここで見取ります。


心拍数と自分が感じた運動の強さ(主観的運動強度)の記録

No.	月 / 日	心拍数	自分が感じた運動の強さ	心拍数(/10)							主観的運動強度								
				5	7	9	11	13	15	17	19	1	2	3	4	5	6	7	
事前	安静時	拍/分																	
	自己診断時	拍/分																	
	目標	拍/分	4 (ややきつい)																
1	/	拍/分																	
2	/	拍/分																	
3	/	拍/分																	
4	/	拍/分																	

トレーニング(持久力)の効果が期待できる目標心拍数
※運動を15分から30分持続した場合

$(\text{最大心拍数} - \text{年齢}) \times 0.65$

最大心拍数の出し方
最大心拍数 = 220 - 年齢



主観的運動強度 (RET) の基準

1	非常に楽である
2	かなり楽である
3	楽である
4	ややきつい
5	きつい
6	かなりきつい
7	非常にきつい

めやす

体育 球技 「バドミントン」

1 単元名 2年球技(バドミントン)

2 単元目標

- パートナーとの動きを調整して攻防するダブルスのゲームに着目したバドミントンに関心を持ち、楽しさや喜びが味わえるように、自分の役割を自覚してその責任を果たし、互いに協力して練習やゲームをしようとするとともに勝敗に対して公正な態度をとろうとする。また、活動場所などの安全を確かめ、健康・安全に留意して練習やゲームをしようとする。(関心・意欲・態度)
- 課題を設定し、その課題を解決するための方法を選んだり、見付けたりできるようにする。相手との攻防に合った作戦を立てたり、練習やゲームで新しい課題を選んだり、見付けたりできるようにする。(思考・判断)
- 個人的な技能やパートナーとの動きの調整の仕方を身に付け、練習やゲームをすることができるようにする。(運動の技能)
- 特性や学び方、個人的な技術やパートナーとの動きの調整の仕方の構造、合理的な練習の仕方、ゲームや審判の方法について、言ったり、書き出したりできるようにする。(知識・理解)

3 中学校から高等学校の「球技(バドミントン)」の学習内容の整理(例)

各校種、各学年での学習内容の整理をすることで系統的な学習計画が作成できます。

	中学校			高等学校		
	1 学年	2 学年	3 学年	1 学年	2 学年	3 学年
ゲーム	やさしいストロークでラリーが続くシングルのゲームを行う	ストロークのバリエーションを使ってラリーを続け、簡単なダブルスのゲームを行う	パートナーとの連携をとりながら様々なストロークを使ってフライトを変化させ、ダブルスのゲームを行う	相手のオープンスペースへ各フライトを使って攻撃し、ホームポジションに戻って防御するシングルのゲームを行う	パートナーとの動きを調整して攻防するダブルスのゲームを行う	相手の動きやフライトを予測し、ダブルスフォーメーションをとるダブルスのゲームを行う
個人的技能	相手のフライトの位置に合わせて打ち返す ・ストローク ・レシーブ	相手のフライトの位置、強さに合わせた ・ストローク ・レシーブ ・ロングサービス ・スマッシュ	ゲームの状況に合わせた ・ストローク ・レシーブ ・ショートサービス ・スマッシュ	打ち分けるフライト ・ハイクリア ・ドライブ ・スマッシュ ・プッシュ ・サービス	ゲームの中で打ち分けるフライト ・ハイクリア ・ドリブンクリア ・ドロップ ・ドライブ ・ヘアピン ・スマッシュ ・プッシュ ・サービス	ゲームの状況に応じて打ち分けるフライト ・ハイクリア ・ドリブンクリア ・ドロップ ・カット ・ドライブ ・ヘアピン ・スマッシュ ・プッシュ ・サービス
攻防	相手からのシャトルを、フォアハンドストロークを使って相手コートにリターンする	相手からのシャトルを、フォアハンドストロークやバックハンドストロークを使ってリターンする	パートナーと連携した基本的な動きをし、前後左右にシャトルを打ち分けたり、スマッシュによって攻撃したりする	状況に応じたストロークで、相手のスペースを攻めたり、味方のスペースを守ったりする	ペアと連携した動きと、状況に応じたストロークで、相手のスペースを攻めたり、味方のスペースを守ったりする	相手の動きやフライトを予測し、ペアで適切なポジションに移動して攻防することについて

※ 各学年で選択できると仮定しての内容。単年度等での設定であればその内容を凝縮して行うことになります。

4 学習の道すじ(後期球技選択:20時間扱い)

事前準備	1時	2～12時	13～19時	20時
<ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケート ・学習資料(技能チェックカード等) ・学習ノート(個人ノート等) ・用具の確認(ラケットなど) 	オリエンテーション	ねらい1 <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的知識を身に付け、基本的技能を身に付けるとともに今できる技能を使ってゲームを楽しむ。 	ねらい2 <ul style="list-style-type: none"> ・パートナーとの連携の仕方を身に付けるとともに連携の課題に応じて練習やゲームを工夫し、楽しむ。 	まとめ
	学習のねらいや道すじの理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ラケットとシャトルに慣れる練習 ・フットワーク(前後・左右・ななめ) ・フォアハンド、バックハンドストロークの練習 ・サービスの練習 ・簡易ゲーム 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスのフォーメーションやルール、審判法の理解 ・ダブルスの練習(シャトルノック等) ・試しのゲーム ・課題に応じた練習 ・ルールや組み合わせを工夫してのシングルス、ダブルスのゲーム 	学習のまとめ



単元計画は、学習のねらいと大まかな学習内容が時系列でわかるように計画します！

5 評価規準

(1) 単元の評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
単元の評価規準	パートナーとの動きを調整して攻防するダブルスのゲームに着目して学習に取り組み、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わえるようにする。 また、自分の役割を受け止め、協力しようとするとともに審判の判定や指示に従い、勝敗の結果を受け止めようとする。 さらに、活動場所の安全を確かめ、健康・安全に留意しようとする。	自分やパートナーとの連携の仕方に適した課題を設定し、その課題を解決するための方法を選んだり、見付けたりする。 また、相手との攻防に合った作戦を立てたり、練習やゲームで新しい課題を選んだり、見付けたりする。	ゲームの中でイクリア、ドリブンクリア、ドロップ、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ、ブッシュ、サービスが打てる。 また、パートナーとの動きの調整の仕方を身に付け、練習やゲームをすることができる。	バドミントンの特性や学び方、個人的な技術やパートナーとの連携の技術の構造、合理的な練習の仕方、ゲームや審判法の方法を言ったり、書き出したりしている。



単元の目標から4つの観点ごとに単元の評価規準を設定します。
 留意点として、該当学年の学習内容に合った「おおむね満足できると判断される」状況(B)を設定しましょう！

(2) 学習活動における具体的評価規準と学習場面における具体的学びの姿（5段階）

	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
A [○]	①～粘り強く取り組み、味わおうとする。 ②～自分の役割を果たしきり協力しようとする。 ③～自ら受け止めるだけでなく、互いのよさを賞賛しようとする。 ④あらゆる場面で自分ばかりでなく	①適した課題を具体的に見付けている。 ②適切な方法について具体的に見付けている。 ③状況に応じた方法を見付けている。	①～タイミングよくコントロールして打てる。 ②～タイミングよくコントロールしてリターンできる。 ③～相手の動きに応じてスムーズに動きができる。	①～具体例を挙げて分かりやすく説明している。 ②～具体例を挙げて分かりやすく説明している。 ③～具体例を挙げて分かりやすく説明している。
A	①～自ら進んで取り組み、味わおうとする。 ②～役割を果たし協力しようとする。 ③～自ら受け止めようとする。 ④～自分ばかりでなく	①適した課題を見付けている。 ②適切な方法を見付けている。 ③状況に応じた方法を提示された中から選んでいる。	①～タイミングよく打つことができる。 ②～タイミングよくリターンできる。 ③～スムーズにできる。	①～説明している。 ②～整理し、説明している。 ③～整理し、説明している。
B	①パートナーとの動きを調整して攻防するダブルスのゲームに着目して学習に取り組み、勝敗を競い合う <u>楽しさや喜びを味わおうとする。</u> ②練習やゲームで、 <u>自分の役割を受け入れながら協力しようとする。</u> ③審判の指示に従い、ルールを守り勝敗や結果を受け止めようとする。 ④活動場所の安全を確かめ、 <u>健康・安全に注意しようとする。</u>	①練習やゲームで自分の <u>課題を選んでいる。</u> ②課題を解決する方法を提示した資料などから <u>選んでいる。</u> ③練習内容の見直しや新たな方法を提示した資料の中から <u>選んでいる。</u>	①ゲームの中の <u>イクリア、ドリブンクリア、ドロップ、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ、プッシュ、サービスが打てる。</u> ②相手の攻撃を <u>リターンできる。</u> ③ダブルスにおいて、パートナーとの動きの調整が <u>できる。</u>	①バドミントンはシャトルのスピードに緩急をつけたり、相手の予測をはずしたりしてラリーを楽しむ特性があることを <u>言ったり、書き出したりしている。</u> ②バドミントンの個人的な技術やパートナーとの連携の仕方、合理的な練習の仕方 <u>言ったり、書き出したりしている。</u> ③ゲームの運営やルール、審判の方法 <u>言ったり、書き出したりしている。</u>
C	①～味わえないでいる。 ②～受け入れきれない。 ③～不平を言う。 ④～注意しきれない。	①～現状に適さない課題を選んでいる。 ②～課題に適さない方法を選んでいる。 ③～選んでいるが、視点がずれている。	①～打てないことがある。 ②～リターンできないことがある。 ③～できないことがある。	①～断片的に言ったり書き出したりしている。 ②～断片的に言ったり書き出したりしている。 ③～断片的に言ったり書き出したりしている。
C [△]	①～味わおうとしない。 ②～受け入れようとしない。 ③～勝ちにこだわり、脅かすことがある。 ④～安全への意識が持てない。	①～課題を選べないでいる。 ②～解決方法を選べないでいる。 ③～選べないでいる。	①～全くできないでいる。 ②～全くリターンできないでいる。 ③～全くできないでいる。	①～全く書き出せないでいる。 ②～全く書き出せないでいる。 ③～全く書き出せないでいる。



具体的評価規準を作成する際の留意点として、
 ① 行動目標的な表現
 …例えば「～している」
 ② 学習活動がイメージできる表現
 …例えば「クリアー・ドロップ・スマッシュが打てる」
 などを考慮して作成します。



具体的評価規準は、内容のまとめりごとの評価規準や単元の評価規準で用いた表現よりも、具体的にします。
 例として…
 ○各種フライトの技能を身に付け～（単元の評価規準）
 ↓
 ○クリアー・ドロップ・スマッシュ～が打てる（具体的評価規準）

6 指導と評価の計画

時間	ねらい・学習活動	学習活動における具体的評価規準				評価方法等
		関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解	
はじめ 1時間目	<p>《オリエンテーション》</p> <p>①学習のねらいや道すじ、具体的な進め方について理解する。</p> <p>②バドミントンの競技・特性について理解する。</p> <p>③学習上の約束と用具の準備やマナー・安全への配慮について理解する。</p> <p>④用具の名称・内容について確認する。</p> <p>⑤学習ノートの使い方と活用方法について理解する。</p>	<p>①</p> <p>ここでは、学習のはじめの段階なので、学習終了後の知識理解だけでなく全ての観点において学習中に診断的に判断しています。</p>				観察 学習カードの記述
なか① 2時間～ 12時間目	<p>ねらい1 基礎的知識を身に付け、基本的技能を身に付けるとともに今できる技能を使ってゲームを楽しむ。</p> <p>①セッティング（ボール、ネット、シャトルの用意）を行う。</p> <p>②準備運動、体ほぐしの運動を行う。</p> <p>③ラケットとシャトルに慣れる練習を行う。</p> <p>④フットワーク（前後、左右、ななめ）の練習を行う。</p> <p>⑤基本的技能の練習を行う。</p> <p>⑥フォアハンド・バックハンドストロークの練習を行う。</p> <p>⑦サーブの練習を行う。</p> <p>⑧簡易ゲームを行う。</p> <p>⑨後片付けを行う。 ⑩まとめをする。</p>	①④	①②	①②	②	観察 学習カードの記述 質問の反応
なか② 13時間～ 19時間目	<p>ねらい2 パートナーとの連携の仕方を身に付けるとともに連携の課題に応じて練習やゲームを工夫し、楽しむ。</p> <p>① セッティング（ボール、ネット、シャトルの用意）を行う。</p> <p>② 準備運動を行う。</p> <p>③ 2人組を作り、ウォーミングアップをかねて各種ショットの練習を行う。（今まで行った基本的技能を使う）</p> <p>④ ダブルスのルール・審判法の説明を聞く。</p> <p>⑤ 試しの試合を行う。</p> <p>⑥ ダブルスフォーメーションの説明を聞く。</p> <p>⑦ ダブルスの試合を行う。</p> <p>⑧ 作戦を考える。（試合の結果の反省や今後の作戦を立てる）</p> <p>⑨ 後片付けを行う。 ⑩まとめをする。</p>	②③	③	③	③	観察 学習カードの記述 質問の反応
まとめ 20時間目	<p>① ビデオ等の視聴覚教材を見ての反省と振り返る。</p> <p>② 学習のまとめを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バドミントンの特性に触れ、仲間と楽しく学習できたか。 ・ゲームや練習の仕方を工夫することができたか。 ・学習の進め方を理解し、自己やチームの課題解決に向けての取り組みができたか。 ・自分やチームの技術が向上したか。 ・マナーや競技規則を守り、安全に留意して学習できたか。 	<p>①②③</p> <p>ここでは（最終日）、関心・意欲・態度、知識・理解を中心に総合的に判断しています。</p>				観察 学習カードの記述 質問の反応

7 展開例

時間	ねらい・学習活動	教師の指導・支援	評価
はじ め 1 時 間 目	<p>《オリエンテーション》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学習のねらいや道すじ、具体的な進め方を理解する。 2 バドミントンの競技・特性について理解する。 3 学習上の約束と用具の準備やマナー・安全への配慮について理解する。 4 用具の名称・内容について確認する。 5 学習ノートの使い方と活用方法について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の進め方、資料の使い方や記録の取り方、活用の仕方について説明し、理解させるようにする。 ・ 視聴覚教材を使い、バドミントンの特性について説明する。 ・ 準備運動不足から大きな怪我につながることやラケットを振る危険性を教師が示し、危険性を伝える。 	<p>【知識・理解】</p> <p>①バドミントンはシャトルのスピードに緩急をつけたり、相手の予測をはずしたりしてラリーを楽しむ特性があることを言ったり、書き出したりしている。 (学習ノート・観察)</p>
な か ① 2 時 間 目	<p>ねらい1 基礎的知識を理解し、基本的技能を身に付けるとともに今できる技能を使ってゲームを楽しむ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 セッティング（ポール、ネット、シャトルの用意）を行う。 2 準備運動を行う。 3 体ほぐしの運動を行う。 4 ラケットとシャトルに慣れる練習を行う。 <p><2人一組で行う></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ラケットの握り方 ・ 直上打ち上げ ・ シャトルすくい ・ ラケットの振り方 <ol style="list-style-type: none"> 5 フットワーク（前後、左右、ななめ）の練習を行う。 6 基本的技能の練習を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ フォアハンド・バックハンドストロークの練習 ・ シャトルノック 7 サーブの練習を行う。 <p><1コートあたり6～8人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ロングサーブ、ショートサーブ <p>※シャトルが当たらないように、→のようにサーブを打つ。</p>  <ol style="list-style-type: none"> 8 簡易ゲーム（総当たり）を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ハーフコートのシングルスゲーム（5点制） 9 後片付けを行う。 10 まとめを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 器具や用具の取り扱い、準備や片付けの仕方について確認をする。 ・ 心と体の調子を整えるなど、体ほぐしの運動のねらいを理解させ、楽しく取り組めるようにする。 ・ 各種ドリルゲームを用意する。 ・ 個人技能については周囲がアドバイスを積極的に行うような雰囲気作りをし、状況に応じて教師が個別指導を行う。 ・ 個人技能やゲームでの様子を解説し、課題の発見を導き出せるよう助言する。 ・ 課題解決に向けての練習法などの資料を提供する。 ・ 学習ノートや教科書等を使ってルールを確認を行わせ、周囲には相互指導ができるように助言する。 ・ 円滑にゲームを進めるため、ゲームの運営や記録の記入ができているか確認する。 ・ 自己評価、相互評価を行い、ねらいの達成状況を確認させるようにする。 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>③ルールを守り、自ら進んで勝敗や結果を受け入れようとする。 (観察、学習ノート)</p> <p>①パートナーとの動きを調整して攻防するダブルスのゲームに着目して学習に取り組む、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わおうとする。 (観察、学習ノート)</p> <p>【思考・判断】</p> <p>①練習やゲームで自分の課題を選んでいる。</p> <p>②課題を解決する方法を提示した資料などから選んでいる。 (観察、学習ノート)</p> <p>【運動の技能】</p> <p>①ゲームの中でのイクリア、ドリブンクリア、ドロップ、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ、プッシュ、サーブが打てる。</p> <p>②相手の攻撃をリターンできる。 (観察、技能チェック表)</p>

<p>ねらい2</p> <p>パートナーとの連携の仕方を身に付けるとともに連携の課題に応じて練習やゲームを工夫し、楽しむ。</p> <p>1 セッティング（ボール、ネット、シャトルの用意）を行う。</p> <p>2 準備運動を行う。</p> <p>3 2人組を作り、ウォーミングアップをかねて各種ショットの練習（今まで行った基本的技能を使う）を行う。</p> <p>② 4 ダブルスのルール・審判法の説明を聞く。</p> <p>5 試しの試合を行う。</p> <p>・ ダブルスのゲーム（5点制）</p> <p>6 ダブルスの動きの、調整の仕方の説明を聞く。</p> <p>7 ダブルスの動きの調整（フォーメーション）を意識した練習を行う。</p> <p>・ トップ・アンド・バック、サイド・バイ・サイド等の練習</p> <p>8 シングルス・ダブルスの試合を行う。</p> <p>・ シングルのゲーム（7点制）</p> <p>・ 動きの調整を意識したダブルスのゲーム（7点制）</p> <p>9 作戦を考える（試合の結果の反省や今後の作戦を立てる。）</p> <p>10 後片付けを行う。</p> <p>11 まとめをする。</p>	<p>つまずきの見られる生徒について、必要な手立てを講じる必要があります。あらかじめ、「努力を必要とする生徒」への指導の手立てを計画しておきましょう！</p> <p>・ダブルスにおけるチームワークとコミュニケーションの大切さを説明し、体づくり運動を通して仲間作りの機会を設ける。</p> <p>・パートナーと共に目標に応じた練習法を選択しているかどうかを確認させ、話し合いの場を設け、学習ノートや教科書を使って考えさせ、場合によってはアドバイスを与える。</p> <p>・ゲームや練習法を工夫して楽しむことのできる雰囲気作りに努める。</p> <p>・円滑にゲームを進めるため、ゲームの運営や記録の記入ができていないか確認する。</p> <p>・自己評価、相互評価を行い、ねらいの達成状況を確認させるようにする。</p>	<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>②練習やゲームで、自分の役割を受け入れながら協力しようとする。（観察）</p> <p>④活動場所の安全を確かめ、健康・安全に注意しようとする。（観察）</p> <p>【思考・判断】</p> <p>②課題を解決する方法を提示した資料などから選んでいる。（観察・学習ノート）</p> <p>【運動の技能】</p> <p>③ダブルスにおいて、パートナーと決めた動きの調整ができる。（観察、技能チェック表）</p> <p>【知識・理解】</p> <p>③ゲームの運営やルール、審判の方法を言ったり、書き出したりしている。（学習ノート・問いかけ）</p>
<p>まとめ</p> <p>20時間目</p>	<p>1 ビデオ等の視聴覚教材を見て、反省と振り返りをする。</p> <p>2 学習のまとめをする。</p> <p>・ バドミントンの特性に触れ、仲間と楽しく学習できたか。</p> <p>・ ゲームや練習の仕方を工夫することができたか。</p> <p>・ 学習の進め方を理解し、自己やチームの課題解決に向けての取り組みができたか。</p> <p>・ 自己やチームの技術が向上したか。</p> <p>・ マナーや競技規則を守り、安全に留意して学習できたか。</p> <p>・ 課題解決への取り組み、課題達成の評価が行われて課題解決力が高まり、技能を身に付けることができたことを理解させるようにする。</p> <p>・ 学習を通して、仲間との関わり合いを深めることができたことを理解させるようにする。</p> <p>・ 自己評価、相互評価を行い、学習のねらい全般にわたっての達成状況を確認させるようにする。</p>	<p>【知識・理解】</p> <p>①②③についての評価問題（知識理解度チェック）</p>

8 学習資料

(1) 事前アンケート (バドミントンの授業を行うための事前調査)

年 組 番 男・女 名前

このアンケート調査は、これから行うバドミントンの授業をよりよい授業にしていくための調査です。成績には一切関係しません。現在の自分の力を正しく認識し、これからの授業で学習していく内容を確認していきましょう。今までの授業を振り返り（中学校での経験も含む）自分が一番あてはまると思うところ（ア・イ・ウ）に○をつけてください。

【関心・意欲・態度】

- Q 1 ア 体育の授業に特に関心を持ち、自ら進んで取り組んでいる。
イ 体育の授業に関心を持ち、取り組んでいる。
ウ 体育の授業にはあまり関心がなく、取り組みも消極的である。
- Q 2 ア 自分の役割を自覚し、仲間への教え合いや励まし合いを積極的に行っている。
イ 自分の役割を受け入れ、仲間と協力しながら練習やゲームを行っている。
ウ 自分の役割を受け入れられず、仲間とのかかわりもあまり持っていない。
- Q 3 ア ルールを守り、勝敗や結果を素直に受け入れようとしている。
イ 審判の指示に従って勝敗や結果を受け止めようとしている。
ウ 審判の判定や勝敗に対して不平を言ったり、ルールを守らなかったりしている。
- Q 4 ア 自ら安全を確かめ、仲間の健康・安全にも留意して運動しようとしている。
イ 自分の健康・安全に留意して運動しようとしている。
ウ 健康・安全への意識が薄く、危険なプレーをしてしまうことがある。



学習前や学習のはじめに、生徒がこれから学習する領域や単元に関して、どの程度の力を持っているか把握しておきましょう！
把握した結果は、今後の指導計画の修正に役立てていきます。



【思考・判断】

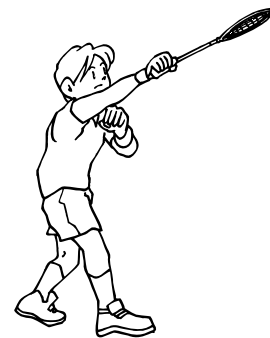
- Q 5 ア 試合や練習を分析して自己（チーム）の課題を考え、授業に取り組んでいる。
イ 自分（チーム）の課題を考え、授業に取り組んでいる。
ウ 課題は設定していない。
- Q 6 ア 課題に適した練習方法や作戦を考えて取り組んでいる。
イ 練習方法や作戦を提示（教科書や資料）されたものの中から選んでいる。
ウ 練習方法や作戦を特に選んだり考えていない。
- Q 7 ア 練習方法や作戦を振り返り、次への取り組みを考えている。
イ 練習方法や作戦を振り返っている。
ウ 練習方法や作戦の振り返りをしていない。



4 観点ごとにアンケート調査することによって、学習計画や評価計画を効果的に見直すことができます！

【知識・理解】

- Q 8 ア バドミントンの特性を十分理解し、説明することができる。
イ バドミントンの特性を理解している。
ウ バドミントンの特性をほとんど知らない。
- Q 9 ア バドミントンのルールを十分理解し、審判ができる。
イ バドミントンのルールを理解している。
ウ バドミントンのルールを知らない。
- Q 10 ア バドミントンの技術構造やダブルスにおけるパートナーとの動きの調整が説明できる。
イ バドミントンの技能のポイントやダブルスにおけるパートナーとの動きの調整がわかる。
ウ バドミントンの技能のポイントやダブルスにおけるパートナーとの動きの調整を知らない。



【運動の技能】

バドミントンの技術について次の質問に答えてください。

- Q 11 あなたは今までにバドミントンの学習経験がありますか？（ある・なし）

※経験が「ある」と答えた人は、次からの質問に答えてください。

- Q 12 どこで経験しましたか？あてはまるもの全てに○をつけてください。

遊び、授業、学校のクラブ等、部活動、地域のスポーツクラブ等 その他（ ）

(2) 評価補助簿 (観察場面での評価補助簿)

観 点			関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度										思 考 ・ 判 断			運 動 の 技 能						知 識 ・ 理 解		
評 価 方 法	(A)粘り強く取り組み、あじわっている。 (A)自ら進んで取り組み、味わっている。 (B)学習に取り組んでいる(参加して活動している) (C)味わえないでいる。 (C)味わおうとしない。		(A)自分の役割を果たしている。 (A)役割を果たし協力している。 (B)自分の役割を受け入れながら協力している。 (C)受け入れられない。 (C)受け入れようとしない。		(A)自ら受け止めるだけでなく、賞賛している。 (A)自ら受け止めていない。 (B)審判の判定に従っていたり、マネーを守っていたりする。 (C)不平を言う。 (C)勝ちにこだわり、脅かす。		(A)あらゆる場面で自分ばかりでなく、 (A)自分ばかりでなく、 (B)用具の準備片付けを行っている、コート内の安全を確認を行っている。 (C)注意しきれない。 (C)安全への意識が持てない。		(A)適切な方法について具体的に見つけている。 (A)適切な方法を見つけている。 (B)課題を解決するための練習方法について、学習資料を選んでいいる。 (C)課題に適切な方法を選んでいる。 (C)解決方法を選べないでいる。		(A)タイミングよくコントロールして打てる。 (A)タイミングよく打てる。 (B)各種のショットがフライトどおりに打てる。 (C)打てないことがある。 (C)手立を講じてないことがある。		(A)相手の動きに応じてスムーズに動けている。 (A)スムーズに動けている。 (B)二人の連携がとれている。 (C)動きができないことがある。 (C)手立を講じてないことがある。		(A)具体例を挙げて分かりやすく説明している。 (A)整理し、説明している。 (B)ルールや審判方法について、言ったり書き出したりしている。 (C)断片的に言ったり書き出したりしている。 (C)全く書き出せないでいる。									
	No.	氏名	性	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	1	〇〇	男																					
	2	△△	男																					
	23	□□	男																					
24	□△	女																						
25	○□	女																						

評価の結果を次の学習に生かすために、学習の経過や結果が分かる記録の蓄積をします。また補助簿は、他の帳簿の基礎資料となるので、きめ細かく、正確な資料の収集と記録を心がけましょう！

53

(3) 学習カード

ア 試合の自己分析カード

ゲームの構成要素	自己分析(評価)	自己分析(評価)
1 サービス	サービスをねらいどおりに打つことができた	5 4 3 2 1
2 サービスレシーブ	サービスレシーブをねらったコースに打つことができた	5 4 3 2 1
3 攻撃	攻撃的にプレーすることができた	5 4 3 2 1
4 守備	しっかり守り、攻撃につなげることができた	5 4 3 2 1
5 チャンス	チャンスを生かしてラリーに勝つことができた	5 4 3 2 1
6 ミス(失敗)	全体的にミス(失敗)が少なかった	5 4 3 2 1
7 コントロール	ラリーの中でねらったコースに打つことができた	5 4 3 2 1
8 コンビネーション・カバー	ダブルスにおいてパートナーのカバーリングやコンビネーションがうまくいった	5 4 3 2 1
9 作戦	作戦を立ててプレーすることができた	5 4 3 2 1
10 粘り強さ	ラリー中あるいは試合終了までにあきらめずにプレーすることができた	5 4 3 2 1
総合分析(評価合計点)		/50

試合分析や技能チェックができるように資料を活用しましょう。その際、生徒が自らの技能課題を確認できるようにするために、学習のねらいや内容に合わせた項目にしましょう！教師にとっては、指導の手立てとして役立てていきます！

※ 5..非常によくできた 4..よくできた 3..普通にできた 2..少しできた 1..できなかった
 ※ 総合分析(評価合計点)の欄に1~10の各項目の評価点の合計を記入する

イ 技能チェック表

年 組 番 氏名

評価内容	自己診断(評価)				
	1	2	9	10	
	/	/	/	/	/
○ハイクリア					
①ラケットの面(中心)で正しくシャトルを打っている。					
②頭上のできるだけ高い位置で打っている。(肘がしっかり伸びている)					
③打つ時は体を横向きにして、しっかりと手首を返している。					
④打球は相手コートのバックバウンダリーライン(エンドライン)付近まで飛んでいる。					
○ドライブ					
①体の前方で正しく打っている。					
②姿勢や重心は低く、膝をしっかりと曲げて打っている。					
③手首をしっかりと返し、速く打球を打っている。(打点が低く、床に打ち落とすことがない)					
④打球はネットすれすれに床と平行に飛んでいる。					
○ヘアピン					
①なるべく高い位置でシャトルを捕らえている。					
②シャトルを打つ際には、しっかりと片足を踏み込んでいる。					
③フォアハンドとバックハンドの両方を使っている。					
④打球はネットから高く飛ばずに、ギリギリを飛んでいる。					
○ドロップ					
①体はしっかりと横向きにして、シャトルが落ちてくるのを待っている。					
②頭上の前方でシャトルを打ち、力を抜いてスイングしている。					
③打球は浮き上がりせずに、相手コートのネット近くに落ちている。					
④カット(シャトルを切るように)で相手のネット近くに落としている。					
○スマッシュ					
①体をしっかりと横向きにして、シャトルが落ちてくるのを待っている。					
②ハイクリアの打点より体の前方でシャトルを打っている。					
③すばやくスイングし、手首を鋭く返している。					
④打球は高い打点から鋭角に相手コートに入っている。					
○バックハンド					
①打つ時に正しくサムグリップ(親指を立てる)にしている。					
②肘からリードしてタイミング良く手首を返している。					
③打球は相手コートの奥の方まで高く飛んでいる。					
○サーブ					
①空振りや、ネットにかからずにねらったところに打っている。					
②ロングサーブは相手コートのバックバウンダリーライン付近まで飛んでいる。					
③ショートサービスはネットギリギリに相手コートのサービスライン前方に飛んでいる。					

ウ 知識理解度チェック

バドミントン知識理解度チェック 年 組 番 氏名

《バドミントンの特性について》

(1) バドミントンの特性は、変化のあるラリーを楽しむことです。では、変化のあるラリーとは、どのような変化のことですか？

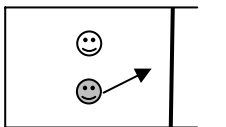
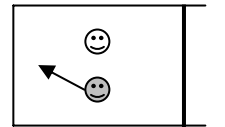
① _____

② _____

(2) あなたはバドミントンの特性を味わうことができましたか。その時の状況を具体的に説明してください。

《パートナーとの連携について》

(1) 授業では簡単な連携の方法を練習しました。☺さんが → の方向へ移動したとき、あなたはどこへ移動すればよいでしょうか？(→ を記入)

①  ② 

(2) パートナーとの連携をスムーズに行うためのポイントを説明してください。

《審判について》

(1) 主審のコールを例にならって記入しましょう。

例：試合開始のコール……「ファーストゲームラブオールプレー」

ポイントしたとき……「 _____ 」

2人目にサービス権が移ったとき……「 _____ 」

サービス権が相手に移ったとき……「 _____ 」

ラリーをノーカウントとするとき……「 _____ 」

試合終了時……「 _____ 」

(2) 主審・サービスジャッジ・線審の役割を説明してください。

① 主審

② サービスジャッジ

③ 線審

種目の特性、技能についての知識や理解、ルールやゲームの進め方など、理解度を評価する際に実施します。

エ 個人ノート

年 組 番 氏 名

月 日 曜日 時限

体調：良い・普通・悪い ()

本時の課題

活動内容計画表

10	準備 ウォーミングアップ
20	
30	
40	
50	片付け 本時のまとめ

学習カードは、生徒にとって学習の記録や達成状況を確認したり、学習を効果的に進めていくための道標に使用していきます。
また、教師にとっては、生徒の学習への取り組み状況や学習の達成状況の確認にもなります。

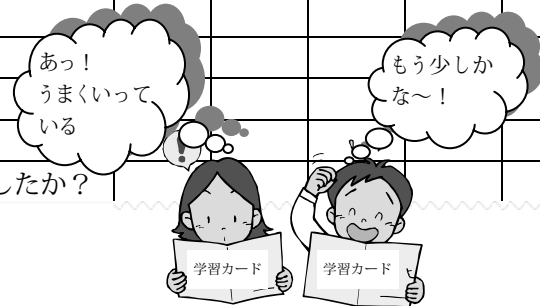
- 反省課題
- 本時の良かった点
 - 本時の改善点
 - 次時間の課題

学習内容の定着度合いや次の学習の方向性などが確認できます。

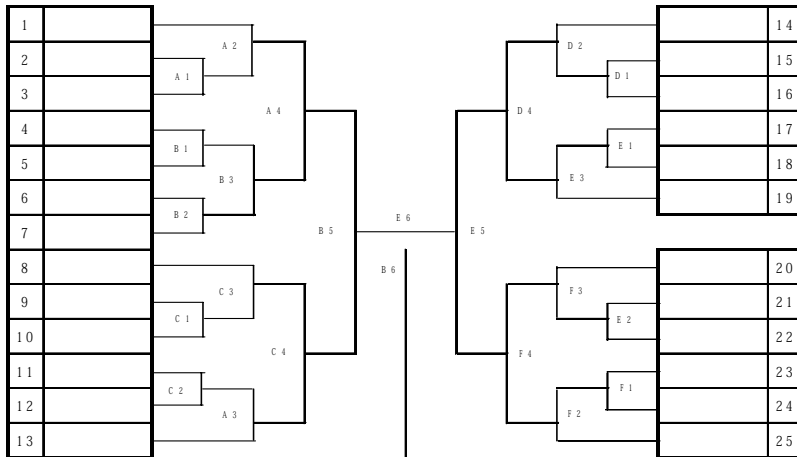
先生への質問

振り返り	非常に良くできた	良くできた	普通にできた	死んでいた	あまりできなかった
意欲を持って積極的に活動できましたか？					
自分の役割(分担)の責任をはたしましたか？					
仲間と協力しながら練習、試合ができましたか？					
審判の指示に従い、ルールを守れましたか？					
活動場所の整理・安全に留意しましたか？					

自己評価項目は学習のねらいに応じて精選しましょう！



オ 対戦表



リーグ戦表

	1	2	3	4	5	6	7	8	勝敗	順位
1										
2										
3										
4										
5										
6										
7										
8										

試合方法 1セットマッチ5ポイント先取、ジュースなし|サーブ権あり

カ 勝敗表

月 日 ()

級班		得点	名前	名前	得点
1			V S		
2			V S		
3			V S		
4			V S		
5			V S		
6			V S		
7			V S		
8			V S		
9			V S		
10			V S		
戦績		勝			敗

円滑にゲームを進めるため、ゲームの運営や記録の記入ができる資料を作成し、用意します。

保健

社会生活と健康「環境と食品の保健」

1 単元名 社会生活と健康「環境と食品の保健」

2 単元目標

- 環境と食品の保健について、仲間との意見交換、仲間と協力して集めた資料をもとに、課題について調べ、記録したり、発表したりしようとしている。(関心・意欲・態度)
- 環境と食品の保健について、自分の学習経験をもとにしたり、資料や仲間の意見・考えを参考にしたりして、課題の設定や解決の方法を考え、選択すべき行動を判断できるようにする。(思考・判断)
- 学校や地域の環境を健康に適したものにするための基準が設定され、環境衛生活動が行われていること、食品の安全性を確保するための基準が設定され、食品衛生活動が行われていることについて、言ったり、書き出したりできるようにする。(知識・理解)

3 学習の道すじ(6時間扱い)



「生涯を通じる健康」が18時間程度、「社会生活と健康」が17時間程度ですから、「環境と健康」「環境と食品の保健」「労働と健康」それぞれ5～6時間が目安になります。

単元:社会生活と健康「環境と食品の保健」

時間	ねらい	学習活動
1	学習の進め方を理解し、環境保健にかかわる活動について理解する。	・学習のねらいと学習の進め方を理解する。 ・環境保健にかかわる活動について、学習カードに記入し、理解する。
2	食品保健にかかわる活動、健康の保持増進のための環境と食品の保健について理解する。	・食品保健にかかわる活動、健康の保持増進のための環境と食品の保健について、学習カードに記入し、理解する。 ・学習班の編成と班内の役割分担を行う。
3	グループごとの課題を設定し、グループの課題に迫るための個人の課題を設定する。	・グループごとに学習の課題を決める。 ・グループの課題に迫るための個人の課題を話し合い(※ブレインストーミング)によって設定する。
4	個人の課題に応じて課題解決のための情報を集め、整理する。	・個人の課題を解決するための方法を班で話し合う。 ・インターネットや図書室を利用して資料を集める。 ・集めた資料から情報を収集する。 ・各人が集めた情報を整理する。
5	集めた情報を整理し、課題の解決方法を考え、発表の準備をする。	・集めた情報をグループ内で発表し合い、課題の解決方法について話し合う。(ミニ発表会) ・出された意見を整理し、新たな課題の解決方法を考える。 ・グループで協力して次の発表の資料を作成する。 ・発表時の役割分担と発表方法を検討する。
6	グループごとに発表し、環境と食品の保健の課題とその解決方法について共有化を図る。	・グループの課題と調べた内容について発表する。 ・他のグループの発表を聞き、理解を深める。

※ブレインストーミング: あるテーマについて様々なアイデアや意見を出すための活動で、活発な意見交換を促し、思考力・判断力の形成に効果的である。

『ブレインストーミングの原則』

- 自由にアイデアを出す。
- 出されたアイデアに対し、批判をしない。
- できるだけ多くのアイデアを出す。質よりも量を重視する。
- 他人のアイデアを活用することも可能である。積極的に他の人のアイデアに便乗したり、出たものを結合させ、新たなアイデアを出したりする。
- 話し合いの時間は短く(1～3分)する。

4 評価規準

(1) 単元の評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
単元の評価規準	○学校や地域の環境を健康に適したものにするため基準が設定され、環境衛生活動が行われていること、食品の安全性を確保するための基準が設定され、食品衛生活動が行われていることについて、仲間との意見交換、仲間と協力して集めた資料をもとに、課題について調べ、記録したり、発表したりしようとしている。	○学校や地域の環境を健康に適したものにするため基準が設定され、環境衛生活動が行われていること、食品の安全性を確保するための基準が設定され、食品衛生活動が行われていることについて、整理して課題を見付けたり、自分の経験や仲間との意見交換、資料などをもとに、課題の解決方法を考えたり、日常生活に当てはめたりして、選択すべき行動を判断している。	○学校や地域の環境を健康に適したものにするため基準が設定され、環境衛生活動が行われていること、食品の安全性を確保するための基準設定がされ、食品衛生活動が行われていることについて、学習した内容を、言ったり、書き出したりしている。

(2) 学習活動における具体的評価規準と学習場面における具体的学びの姿（5段階）

	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
A [○]	①～仲間と働きかけながら意見交換しようとしている。 ②～常に進んで調べようとしている。 ③～常に進んで発表しようとしている。	①～グループの課題に応じた適切な個人の課題を見付けている。 ②～自分に合った適切な方法を見付けている。 ③～実践につながる適切な行動としてまとめている。	①②③ ～具体例を背景に入れたり、分かりやすく置き換えたりして説明している。
A	①～進んで意見交換しようとしている。 ②～進んで調べようとしている。 ③～進んで発表しようとしている。	①～グループの課題に応じた適切な個人の課題を選んでいる。 ②～適切な方法を見つけている。 ③～個人の状況に応じた適切な行動としてまとめている。	①②③ ～具体例を挙げて説明している。
B	① 環境と食品の保健について、課題や指示に注目して、 仲間と意見交換をしようとしている。 ② 環境と食品の保健について、新聞や図書室の関連資料、インターネットの関連サイト等を利用して集めた資料をもとに、 調べようとしている。 ③ 環境と食品の保健について、調べたことや自分や仲間の意見をまとめたことを 発表しようとしている。	① 環境と食品の保健について、自分の学習や経験、VTRや関連資料、仲間の意見・考えなどを参考に、 グループの課題に応じた個人の課題を選んでいる。 ② 環境と食品の保健について、集めた情報を整理し、それをもとに課題を解決するための適切な方法を選んでいる。 ③ 環境と食品の保健について、学習したことを日常生活に当てはめ、 選択すべき行動をまとめている。	① 上下水道の整備、ごみやし尿などの廃棄物の処理などの環境衛生活動は、自然や社会生活における環境と健康を守るために行われていること、その現状、問題点、対策などを総合的に把握して改善していかなければならないことについて、 言ったり書き出したりしている。 ② 食品の安全性の確保は食品衛生法などにもとづいて行われていることについて、 言ったり書き出したりしている。 ③ 環境と食品の保健を守るためには、生産・流通・消費・廃棄の各段階での安全性が求められること、それに係る健康被害の防止と健康増進には、行政・生産者・消費者などがそれぞれの役割を果たさなければならないことについて、 言ったり書き出したりしている。
C	①～断片的な意見交換に留まっている。 ②～部分的に調べようとしている。 ③～発表するに至らないでいる。	①～グループの課題に注目できずに個人の課題を選んでいる。 ②～選べない時がある。 ③～部分的なまとめに留まっている。	①②③ ～断片的に言ったり書き出したりしている。
C [△]	①～意見交換しようとしていない。 ②～調べようとしていない。 ③～発表しようとしていない。	①～個人の課題を選べないでいる。 ②～適切な行動を選べないでいる。 ③～まとめられずにいる。	①②③ ～全く言えなかったり、書き出せなかったりしている。

5 指導と評価の計画

時間	学習内容と活動	学習活動における具体的評価規準			評価方法等
		関心・意欲・態度	思考判断	知識理解	
1	<p>【学習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○上下水道の整備、ごみやし尿などの廃棄物の処理などの環境衛生活動は、自然や社会生活における環境と健康を守るために行われていること、その現状、問題点、対策などを総合的に把握して改善していかなければならないこと <p>【学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいと学習の進め方を理解する。 ・環境保健にかかわる活動について、学習カードに記入し、理解する。 ・学習カードの記入しまとめをする。 			①	<p>【知識・理解】</p> <p>①（学習カード）</p>
2	<p>【学習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○食品の安全性の確保は食品衛生法などにもとづいて行われていること ○環境と食品の保健を守るためには、生産・流通・消費・廃棄の各段階での安全性が求められること、それに係る健康被害の防止と健康増進には、行政・生産者・消費者などがそれぞれの役割を果たさなければならないこと <p>【学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいと学習の進め方を理解する。 ・環境保健にかかわる活動、食品保健にかかわる活動、健康の保持増進のための環境と食品の保健について、学習カードに記入し、理解する。 ・学習班の編成と班内の役割分担について話し合う。 			② ③	<p>【知識・理解】</p> <p>②③（学習カード）</p>
3	<p>【学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境と食品の保健についてのポイントを整理する。 ・グループごとに学習の課題を決める。 ・グループの課題に迫るための個人の課題を話し合い（ブレインストーミング）によって設定する。 	①	①		<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>①（観察・学習カード）</p> <p>【思考・判断】</p> <p>①（観察・学習カード）</p>
4	<p>【学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の課題を解決するための方法を班で話し合う。 ・インターネットや図書室を利用して資料を集める。 ・集めた資料から情報を収集する。 ・各人が集めた情報を整理する。 	②			<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>②（観察・学習カード）</p>
5	<p>【学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集めた情報をグループ内で発表し合い、課題の解決方法について話し合う。（ミニ発表会） ・出された意見を整理し、新たな課題の解決方法を考える。 ・各人が調べた情報を整理し、課題の解決を図る。 ・グループで協力して次回の発表の資料を作成する。 ・発表時の役割分担と発表方法を検討する 	① ③	② ③		<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>①③（観察・学習カード）</p> <p>【思考・判断】</p> <p>②③（観察・学習カード）</p>
6	<p>【学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの課題と調べた内容について、発表する。 ・他のグループの発表を聞き、理解を深める。 ・学習した内容をワークシートを利用してまとめる。 	③	③	② ③	<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>③（観察・学習カード）</p> <p>【思考・判断】</p> <p>③（観察・発表用資料）</p> <p>【知識・理解】</p> <p>①②③ （学習カード・発表用資料）</p>

6 展開例

(1) 『3時間目』

時間	学習内容と活動	教師の指導・支援	評価
5 10	<p>【学習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●環境と食品の健康を守るためには、生産・流通・消費・廃棄の各段階での安全性が求められること、それに係る健康被害の防止と健康増進には、行政・生産者・消費者などがそれぞれの役割を果たさなければならないこと <p>【学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習内容を確認する。 ○前時の学習のポイントを整理する。 ○発問に答える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習内容を説明する。 ○学習カードの記述内容を見ながら、前時の学習内容を整理する。 	<p>教師が学習活動中にかける「発問・言葉かけ」例です。</p>
15	<p>日本の食の問題は、どんなものだと思いますか。</p> <p>予想される答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工食品が多い ・なにが使われているか分からない ・パックやビニールに包まれている ・牛が安心して食べられない 	<ul style="list-style-type: none"> ○答えにくい際には「日本と外国の食を比べてみて気が付くことを言ってください。」といった発問を加えて行う。 ○発問の答えを分類して板書する。 	
20	<p>その問題の原因はどんなところにあると思いますか。</p> <p>予想される答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者の意識が低い ・輸入のシステムが悪い ・販売者が利益を求めすぎる <ul style="list-style-type: none"> ○グループの役割を確認する。 ○前時の学習内容や発問の答えをもとにグループで調べる課題を決定する。 <p>予想される課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の食—その現状 ・食をめぐる問題 ・食の安全確保とは ・消費者にできること ・環境と健康を守るためには 	<ul style="list-style-type: none"> ○意見が出にくい際は、学習した内容等を確認する。 ○課題の言葉が出ない場合には、予想される課題の内容を例として提示し、イメージが近いものを選ぶように伝える。 	<p>【関心・意欲・態度①】</p> <p>①環境と食品の保健について、仲間と意見を交換したりしながら学習を進めようとしている。 (観察・学習カード)</p>
35	<p>選んだ課題に係ると思う言葉を思いつくままに書いてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○カードブレインストーミングを使って、キーワードから連想される事柄を、3分間で出し合う。 ○カードに書かれた意見の中で、同じような内容の意見をグループ化する。 ○グループ化したものに題名をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の学習や発問の答えを利用して、できるだけ多くの事柄を書くように伝える。 ○グループ化、題名をつける際の、分類の視点をグループ内で統一するように伝える。 	
45	<p>付けた題名が、個人が調べる課題となり、グループ化した内容が、その課題を調べるキーワードになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○グループの課題にせまるものとして、足りないものがあれば、それを出し合う。 ○グループ化した題名から個人の課題を決める。 ○学習カードに記入する。本時の学習のまとめをする。 ○次時は、それぞれ決められた個人の課題について調べることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○記入された個人の課題が、グループの課題に迫るものになっているかについて確認するように伝える。 *学習カードに記入された課題については、授業後に確認し不十分なものについては、個別に指導する。 ○どのような資料が必要なのかについて、考えておくように伝える。 	

(2) 『6時間目』

時間	学習内容と活動	教師の指導・支援	評価
5	<p>【学習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●上下水道の整備、ごみやし尿などの廃棄物の処理などの環境衛生活動は、自然や社会生活における環境と健康を守るために行われていること、その現状、問題点、対策などを総合的に把握して改善していかなければならないこと ●食品の安全性の確保は食品衛生法などに基づいて行われていること ●環境と食品の保健を守るためには、生産・流通・消費・廃棄の各段階での安全性が求められること、それに係る健康被害の防止と健康増進には、行政・生産者・消費者などがそれぞれの役割を果たさなければならないこと <p>【学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習内容の確認をする。 ○グループごとに発表をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習内容を説明する。 	
	<p>「各グループの発表を行います。課題やその解決方法、そして、日常生活に生かすことなどを分かりやすくまとめて発表しましょう。また、発表を聞く人も、学習カードに発表の仕方や内容について相互評価してみましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごと、一人ひとりが発表する。 ・発表を聞いて相互評価をし、自分の意見や考えを学習カードに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発表に必要な用具、機材を用意する。 ○学習カード(相互評価表)を用意する。 ○声が小さいなど聞き取りにくい発表は、その場で指導し、全員に発表内容が聞こえるようにする。 ○選択すべき行動が示されていない発表は、質問等を行い考えるようにする。 ○理解が浅かったり間違っていたりする場合は、補足説明をする。 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>③環境と食品の保健について、調べたことや自分や仲間の意見をまとめたことを発表しようとしている。 (観察・学習カードの相互評価)</p> <p>【思考・判断】</p> <p>③環境と食品の保健について、学習したことを日常生活に当てはめ、選択すべき行動をまとめている。 (観察・発表用資料)</p>
35	<p>「他のグループの発表を聞きながら、各グループの発表をまとめ、生活する上での意見や考えを、自分の生活に当てはめて簡単にまとめましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教師からの発表のまとめを聞き、本時の学習のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「選択すべき行動」を中心に、発表のまとめをする。 	<p>【知識・理解】</p> <p>②食品の安全性の確保は食品衛生法などに基づいて行われていることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>③環境と食品の保健を守るためには、生産・流通・消費・廃棄の各段階での安全性が求められること、それに係る健康被害の防止と健康増進には、行政・生産者・消費者などがそれぞれの役割を果たさなければならないことについて、言ったり書き出したりしている。(発表用資料・学習カードの記述)</p>
40	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のまとめカードと振り返りシート(アンケート等)により単元のまとめをする。 <p>「単元全体を通して、学んだことを学習カードに記入し、まとめるとともに、学習に対する取り組みを振り返ってみましょう。」</p>		

7 学習資料

(1) 学習前の実態把握 アンケート調査

単元計画の作成に生かしましょう。

保健の授業に関するアンケート

Q1 保健という科目は好きですか？

ア 好き イ まあまあ好き ウ あまり好きでない エ 好きではない

Q2 保健の授業をどのような方法でやりたいですか？

ア 一斉授業 イ 討論形式 ウ 課題学習 エ ビデオ教材 オ その他

Q3 保健の授業はどのような形態でやりたいですか？

ア グループ イ 個人 ウ どちらでもよい

Q4 保健の授業の中で夢中になって勉強することがありますか？

ア よくある イ ときどきある ウ あまりない エ 全然ない

Q5 保健の授業の中で「もっと知りたい、もっと調べたい」と思うことがありますか？

ア よくある イ ときどきある ウ あまりない エ 全然ない

Q6

}

事前アンケート結果より

「保健の授業で自分の意見や考えを述べることができますか」

【A:「よくある」14% B:「時々ある」43% C:「あまりない、ない」43%】

「保健の授業の中で『もっと知りたい、もっと調べたい』と思うことがありますか」

【A:「よくある」8% B:「時々ある」33% C:「あまりない、ない」59%】

結果から考えられること

「主体的な学習活動が身に付いていない。」と考えられる。

「調べ学習」を取り入れようか。班の話し合いでは「ブレインストーミング」をしてみようか？

「保健の授業で『なぜ』『どうして』と疑問をもつことがありますか」

【A:「よくある」5% B:「時々ある」50% C:「あまりない、ない」45%】

「保健の授業で抱いた疑問を解決していますか」

【A:「よくある」14% B:「時々ある」50% C:「あまりない、ない」36%】

結果から考えられること

「課題解決学習の仕方が身に付いていない。」と考えられる。

課題を設定しやすいように「キーワード」を提示しよう。

「1学期に学習した内容40項目についてのアンケート平均」

【A:「わかる」20% B:「だいたいわかる」38% C:「あまりわからない、わからない」42%】

結果から考えられること

「これまでの学習方法では理解が難しい。」と考えられる。

学習カードに、学習した内容をまとめられるように工夫しよう。

(2) 学習カードの記述欄

「今日の授業でわかったこと」の欄の記述より

1 日本の食 ～その現状～

☆O-157とは…「腸管出血性大腸菌O-157」人に下痢などの消化器症状や合併症を起こす。夏から秋にかけて発生しやすく、症状は鼻水など風邪引きを思わせる。食品の十分な加熱や手洗いで予防できる。

☆狂牛病…

単なる資料からの記述だけではなく、日常生活や身近な例をあげた説明を大切にしましょう。

(3) 観察記録簿

[年 組 座席表] 月 日 ()

【関=関心、思=思考、知=知識】

名前	関	思	知	名前	関	思	知	名前	関	思	知	名前	関	思	知

総括しやすいように、三色ペンを利用し、「関心・意欲・態度」は赤、「思考・判断」は青、などと色分けして記録する等の工夫も考えましょう。

評価をするための指導ではなく、指導に役立てるための評価ですので、観察記録に時間がかからず、授業後も総括しやすい方法を考えましょう。

(4) 生徒の自己評価

学習カードⅡ 2年 組 番 氏名 ()

※ 今日の授業について振り返ってみましょう。 { } の中で当てはまる項目を○で囲んでください。

1 仲間と意見を交換したりしながら学習を進めることができましたか。

- ア 積極的に協力し、意見交換ができた
- イ 協力や意見を交換しようとした
- ウ 協力できず発言もできなかった

2 本日の学習内容を理解することができましたか。

- ア 十分理解し説明できる
- イ ある程度理解している
- ウ よくわからなかった

3 課題の設定や解決に向けて取り組むことができましたか。

- ア 仲間の意見やいくつかの資料をもとに、考察することができた
- イ 特定の資料をもとに、考察することができた
- ウ 資料やデータの分析や、考察ができなかった

「関心・意欲・態度」を評価する参考とします。

どんな意見を言いましたか？
「賞味期限」はどのように決めているのだろうか？

「思考・判断」を評価する手がかりとします。

学習カードに「振り返り欄」を設け、次時の学習に役立てることができるにしておきましょう。観察と学習カードの自己評価に違いがある場合は、声かけや学習カードへのアドバイスにより、より客観的な自己評価ができるよう指導しましょう。

(5) 学習カードの記述

学習カードの記述より
『感想・課題』
「今日の授業で感じたことや、課題としたことを書いてみよう。」

「賞味期限」を調べていると「消費期限」もあるということがわかった。次はこの違いを調べてみようと思う。

学習カードの記述欄には、今日の授業を振り返り次時の課題を明確にするために、どのようなことを記入するかという具体的な視点がわかるようにしておきましょう。

「思考・判断」を評価する手がかりとします。

(6) 発表用資料

発表用資料

テーマ：消費者にできること（4班）

『食品表示の見方』（○番 ○○ ○○）

☆品名（食品名）……食品の名前

☆原材料名……食品添加物、アレルギー物質、遺伝子組み換え食品など

☆内容量……食品の中身のグラム数

☆賞味期限……品質保持期限のこと。比較的保存のきく食品に品質が保たれる期限として表示される。

※消費期限とは品質の変化が大変速く、おおむね5日以内で食べられなくなる食品に表示される。

☆保存方法……表示された保存方法が守られなかった場合は表示された期限内であっても、その商品が劣化したり変質したりする恐れがある。

☆製造者……製造者名と所在地が書かれている。

※生鮮食品にはどこでとれたかがわかるように「原産地」が表示されている。

☆調べてみて……普段よく目にする表示でも、読み方や意味がわからなかったので勉強になりました。これらは直接、人体に関わることなのでこれからは原材料名や賞味期限などをよく見て食品を買っていきたいです。

調べた結果をもとに、「今後、自分がどのように行動するか」という行動選択や意思決定についての考えを大切にしましょう。

(7) 学習カード（相互評価表）

学習カードⅥ

2年 組 番 氏名 ()

①～③の項目（内容は※印参照）について発表の評価をして、意見・考えを書きましょう

		①	②	③	発表内容及び自分の意見・考え
グループ1	日本の食その現状	1	A・B・C	A・B・C	A・B・C
		2	A・B・C	A・B・C	A・B・C
		3	A・B・C	A・B・C	A・B・C
		4	A・B・C	A・B・C	A・B・C
		5	A・B・C	A・B・C	A・B・C
		6	A・B・C	A・B・C	A・B・C
		グループ全体	A・B・C	A・B・C	A・B・C
グループ2	食の安全確保	1	A・B・C	A・B・C	A・B・C
		2	A・B・C	A・B・C	A・B・C
		3	A・B・C	A・B・C	A・B・C
		4	A・B・C	A・B・C	A・B・C
		5	A・B・C	A・B・C	A・B・C
		6	A・B・C	A・B・C	A・B・C
		グループ全体	A・B・C	A・B・C	A・B・C

「思考・判断」や「知識・理解」の評価の手がかりとします。

※評価項目とその規準

- ① 発表の仕方はわかりやすかったですか
 - A とてもわかりやすかった
 - B ふつうだった
 - C わかりにくかった
- ② 課題やその解決方法などが伝わりましたか
 - A 解決方法などがとてもよく伝わった
 - B 解決方法などがなんとなく伝わった
 - C 解決方法などが伝わってこなかった
- ③ 今後の日常生活において、選択すべき行動が伝わりましたか
 - A 選択すべき行動がとてもよく伝わった
 - B 選択すべき行動がなんとなく伝わった
 - C 選択すべき行動が伝わってこなかった

「関心・意欲・態度」や「思考・判断」を評価する参考とします。

高等学校における保健体育の学習評価ハンドブック
～指導と評価の一体化をめざして～
平成 19 年度版

平成 19 年 4 月 発行

発行者 神奈川県立体育センター
〒251-0871
藤沢市善行 7-1-2
TEL：0466(81)2572（研修指導室）
FAX：0466(83)4622
taiiku-c.4317.sidou@pref.kanagawa.jp